

令和6年度 研究まとめ

《Ⅰ今年度の研究概要》

1. これまでの研究の成果と課題及び本年度の研究の方向性
 - (1) 本校の研究経過
 - (2) 本研究の方向性
 - (3) 研究仮説
 - (4) 研究の目的
 - (5) 研究の方法
 - (6) 研究体制
2. 今年度の取り組み・授業改善の取り組み
 - (1) 今年度の研究活動
 - (2) 実践報告（小学部国語分科会、中学部・高等部国語分科会）
3. 考察
4. 成果と課題
5. 資料
 - (1) 目指す姿
 - (2) 授業シート
 - (3) 授業づくりのコツ
 - (4) 協働的な学びのステップ
 - (5) 単元配列表
 - (6) 個別最適な学びと協働的な学びの授業作りのヒント

《Ⅱ実践報告資料》

1. 「国語数学（個別学習）・小学部」（小2、小3、小5、重重小6）
2. 「国語（グループ）・小学部」（小3、小4、小6、重重小3）
3. 「国語数学（個別学習）・中学部」（中2、中3）
4. 「国語（グループ）・中学部」（中1、中2）
5. 「国語数学（個別学習）・高等部」（高2）
6. 「国語（グループ）・高等部」（高2、高2）
7. 「職業・中学部」（中1、中3）
8. 「職業・高等部」（高1、高2、高3）

令和6年度 都立王子特別支援学校・研究概要

1 これまでの研究の成果と課題及び本年度の研究の方向性

(1) 本校の研究経過

東京都立王子第二特別支援学校から小学部、中学部を本校に移管。

平成31年4月1日現在の王子特別支援学校（小学部中学部高等部）となる。本年度で6年目。

令和2年度の研究

研究テーマ	「新学習指導要領に応じた学びの充実」 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けた12年間のシラバスの作成～
成果	・学習指導要領の全面実施に合わせ、各段階の目標や指導内容についての文献研究 ・各教科で学習指導要領から内容構成表、単元配列表を作成

令和3年度の研究

研究テーマ	「新学習指導要領に応じた学びの充実」 ～社会に開かれた教育課程の実現に向けた12年間のシラバスの作成 2～
成果	・昨年度の研究テーマを継続実施 ・学習指導要領についての文献研究 ・令和2年度作成の単元配列表の更新

令和4年度の研究

研究テーマ	「知的障害小・中・高一貫校における教育的対応を踏まえた授業づくり」 ～王子の「一貫した教育課程」の構築に向けて～
成果	・単元配列表を基に授業づくりを実施。 ・単元配列表を横に見て、全7段階のステップを意識した。

作成資料【単元配列表】について（令和2年度、3年度作成）

- ・具体的な指導領域と内容の整理を行った。
- ・単元の位置付けと段階の具体的指導内容を明確化した。（全7段階の指導内容が分かる表にした）

The image displays two examples of unit arrangement tables. The left table is a grid with columns for subjects (e.g., Japanese, Math, English, Physical Education, Music, Art) and rows for learning stages (e.g., 1st stage, 2nd stage, etc.). The right table is a similar grid but with more detailed content descriptions in the cells, showing specific learning objectives and activities for each unit and stage.

(2) 本研究の方向性

令和5年度からの研究

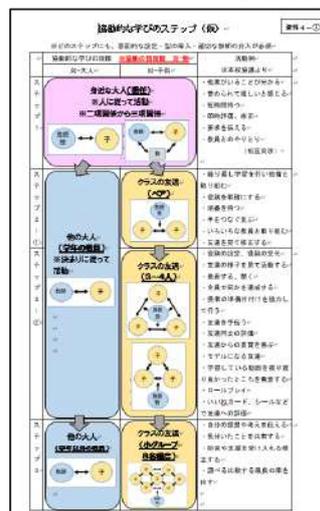
研究テーマ (3年計画) 「個に応じた確かな学び12年間をつなぐ授業実践～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」	
令和5年度 (昨年度)	国語算数数学自立活動 朝のモジュールとコマの授業づくり授業改善を行う。モデル事例を検証していく。
令和6年度 (今年度)	「伝え合い学び合う」 国語、職業 自立活動の要素を取り入れた協働的な学びを目指した授業づくり。
令和7年度	↓ カリキュラムマネジメントの視点で、年間指導内容の整理を行う。

研究テーマ「個に応じた確かな学び12年間をつなぐ授業実践～個別最適な学びと協働的な学びを通して～」3年計画で実施した。今年度は2年次として実施した。

昨年度は、全学部で国語、算数、数学の教科指導で実践することにした。また、研究テーマ1年次ということで、分科会を学年単位を基本にした。個別最適な学びとは何か、協働的な学びとは何か、協議をしながら授業づくりに取り組んだ。

まず、個別最適な学びについては、本校で考える個別最適な学びを「自立活動の視点」でとらえることとした。個別最適な学びとは、特別支援教育で以前から大切にしてきた“個に応じた”指導である。個に応じた指導は、特別支援学校で得意とする部分だが、今一度、授業の中で実践できているのか、工夫や取り組みについて考えた。

協働的な学びについては、教員間で意識の違いが大きかった。協働をどのように考えるのか、分科会ごとに全教員で協議を行った記録から整理をした。本校では、協働的な学びの前段階として“対物”の段階が必ず存在し、その段階を経て協働的な学びに向かっていくという考えとした。このような協議を基に「協働的な学びのステップ(仮)」を作成した。



1年次の取り組みの中で、課題として明確になったこととして、

- ・個別最適な学びの観点として自立活動の視点を取り入れたが、実際に授業に落とし込む部分が弱かった。
- ・協働的な学びは知的障害教育の中で課題である。(令和5年度講師：中西郁氏)

今年度、研究テーマ2年次として取り組むにあたり、昨年度の研究を受けて今までのように知識・技能を中心とした授業だけでなく、どのように学ぶのか“学び方”に注目をしながら、思考・判断・表現を意識し、より主体的に学びに向かう態度を深めていく実践に取り組んでいくことにした。それを受けて2年次のサブテーマとして「伝え合い学び合う」を設定した。“伝え合い”はコミュニケーション、“学び合う”は思考・判断を深め、教

師や友達とのやりとりを増やしていき主体的に学びに向かう授業を目指した。また、今年度は小学部、中学部、高等部の国語、中学部、高等部の職業の教科指導の中で本研究に取り組むことにした。

今年度（2年次）の個別最適な学びについて、各授業の中で個々に応じた手だてや配慮ができていのかどうか、また、取り組んできた手だてや配慮が自立活動のどの部分なのか、逆引きの考え方で実践を改めて整理していくこと、またICTの活用などを含めて実践していくこととした。

協働的な学びについては、1年目の研究で知的障害教育で苦手な部分であることがわかった。協働的な学びについては、すべての授業において意識して取り組んでいくために、協働的な学びの「ステップ」と「しかけ」をより意識し、実践に取り組んでいくことにした。このように、個別最適な学びと協働的な学びを往還的に取り組んでいくことで、よりよい授業作り授業改善に取り組んでいくよう校内研究を進めていくことにした。

（3）研究仮説

個別最適な学びと協働的な学びが一体的に充実することで確かな学びが促され目指す姿が実現できるのではないか。個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、ねらいを明確にした授業実践を行うことで、児童生徒の“わかる、できた”（確かな学び）が積み重なり「目指す姿」を実現できる。このような授業実践・改善を繰り返すことで仮説の検証につながる。

（4）研究の目的

- ・自立活動をベースとした授業づくりを実践する。
- ・自立活動をベースにした上で「伝え合い学び合う」協働的な学びの授業実践をする。
- ・「目指す姿」と「単元事例一覧表」を活用した授業づくりの方法と評価改善を明確にする。
- ・学部間のつながりが見え、一貫性、系統性、発展性のある指導を行う。

（5）研究の方法

研究の目的を達成するための研究方法として以下のように実施した。

- ・国語と職業の教科指導の中で、研究を進める。
- ・「目指す姿」※1「単元事例一覧」※2を活用しながら授業シートを作成する。（12年間をつなぐ）
- ・自立活動の項目から実態把握を行い、自立活動のねらいを明確にする。
- ・協働的な学びのステップを活用し、協働的な学びの段階を踏まえた「しかけ」を組み込んだ授業展開をつくる。（システム作り）
- ・授業の中で、やりとりの質や量を記録する。（プロセスの整理）
- ・児童生徒が思考したり判断したりしながら学んでいる場面を記録する。（エピソードの記録）

※1 昨年と今年度で作成

※2 R2作成の単元配列表をR5に再編成

分科会形式とする。全教職員が分科会に所属し、取り上げた事例について所属の教員全員で授業改善を図る。分科会は、以下のように組織した。

分科会の編成

分科会 1： 小学部 国語分科会	①グループ（ステージⅢ-2 以上を中心とした研究グループ） ②グループ（ステージⅢ-1 を中心とした研究グループ） ③グループ（ステージⅡ を中心とした研究グループ） ④グループ（重度重複学級を中心とした研究グループ）	本校外部専門員 河村 智子 氏
分科会 2： 中学部・高等部 国語分科会	1 グループ 2 グループ（中学部高等部を均質に 2 グループに分ける）	本校外部専門員 磯部 裕子 氏
分科会 3： 中学部・高等部 職業分科会	a グループ（重度重複学級を中心とした研究グループ） bc グループ（ミドルを中心とした研究グループ） d グループ（基礎類型を中心とした研究グループ）	東京都就労支援 アドバイザー 藤田 誠 氏

(6) 研究体制

校務分掌組織、研究研修部研究推進部門を中心に学校研究の運営を進める。研究の推進にあたって、川口短期大学教授 井上昌士先生に指導・助言を受ける。各分科会講師の先生から、授業実践について改善などのアドバイスを受けるため、年間数回の授業観察・助言を設定した。

研究全体 川口短期大学教授 井上 昌士 氏		
分科会 1： 小学部国語分科会	分科会 2： 中学部・高等部国語分科会	分科会 3： 中学部・高等部職業分科会
本校外部専門員 河村 智子 氏	本校外部専門員 磯部 裕子 氏	東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠 氏

2 今年度の取り組み・授業改善の取り組み

(1) 今年度の研究活動

4月	研究方針説明会 ・今年度の研究の方向性について説明 ・モデル事例の提示
4月	全校講師講演 【研究テーマに関する基礎研究】 ・研究テーマを踏まえて自立活動についての講演会
5月	分科会の編成 ・小学部国語分科会—この中をさらに認知別に4つのグループに分ける ・中学部・高等部国語分科会—さらに2つのグループに分ける（中と高を均質に分かれる） ・中学部・高等部職業分科会—類型別に3つのグループに分ける
6月	分科会ごとに講演 【研究テーマに関する基礎研究】 ・本校外部専門員 河村 智子 氏（小学部国語分科会） ・本校外部専門員 磯部 裕子 氏（中学部・高等部国語分科会） ・東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠 氏（中学部・高等部職業分科会）
7月	授業実践1 【授業に関する研究】 ・各分科会ごとに授業実践の共有、協議
7月	川口短期大学教授 井上 昌士 氏による学校視察、助言

7月	夏季教材展示 ・全教員が1点以上の教材提出	【教材研究】
8月	教材研修会 ・教材の活用方法を発表、展示 ・北区特別支援学級設置校に公開	【教材研究】
9月	縦割り報告会1 学校全体を大きく2グループに分ける。小学部中学部高等部の教員を均等に分ける。各学部の授業を発表。 ・1学期に協議をした「目指す姿」について報告 ・個別学習を中心に1学期の取り組みの発表	【12年間の共有】
9月	授業実践2 ・各分科会ごとに7月の授業実践の改善案の発表	【授業に関する研究】
9月 10月	分科会講師（河村 智子 氏、磯部 裕子 氏、藤田 誠 氏）による授業観察、助言	
10月	授業実践3 ・各分科会ごとに授業実践の共有、協議	【授業に関する研究】
11月	授業実践4 ・各分科会ごとに10月の授業実践の改善案の発表	【授業に関する研究】
12月	川口短期大学教授 井上 昌士 氏による授業観察、助言	
12月	分科会まとめ	
12月	縦割り報告会2 学校全体を大きく2グループに分ける。小学部中学部高等部の教員を均等に分ける。各学部の授業を発表。 ・1学期に協議をした「目指す姿」について発表 ・個別学習を中心に1学期の取り組みの発表	【12年間の共有】
1月	全国公開実践報告会 川口短期大学教授 井上 昌士 氏 本校外部専門員 河村 智子 氏 本校外部専門員 磯部 裕子 氏 東京都就労支援アドバイザー 藤田 誠 氏 ・授業公開 ・教材展示 ・ポスター発表 ・研究概要 ・講師ミニ講座 ・分科会ごとに実践報告 ・講師講演助言	
2月	研究のまとめ発行	

(2) 実践報告

小学部国語分科会

実践報告会

小学部4年

国語「いろいろな動物を知ろう」

発表者 岡部 友貴 教諭

児童の実態

対象児の実態

- ・発声やクレーンで要求を表出する。周りに意識が向きにくくなることもある。
- ・呼びかけに応じるが、言葉で意思を表出することが難しい。

アセスメント

太田ステージ I
小学部国語学習指導要領1段階

目指す姿

- 数や読み書きの基礎を身に付ける。
- 好きな事や物を見付ける、増やす。
- いろいろな人と一緒に活動する。
- 最後まで活動をやりとげる。

自立活動の基礎課題(個別最適な学びの観点)

「環境の把握」「コミュニケーション」に課題がある。



- ・座席配置の工夫や雰囲気づくり。
- ・他者を意識して取り組む活動の設定。

自立活動の目標(個別最適な学びの観点)

- ①他者の助言を受けながら情緒を安定させて、学習に取り組む。
- ②教員が示した言葉や動作、ものに注目しながら活動に参加する。

小学部4年の実践報告

学習指導要領の位置付け	国語 言葉の働き(語彙) 小学部1段階【いろいろな言葉】
授業名	「いろいろな動物を知ろう」
活動1	「まねっこ動物」
活動2	「チョッキかして、どうぞ」

改善前の様子

「まねっこ動物」

正面の教員に注目し、
動作や鳴き声で動物を表現した。

「チョッキかして・どうぞ」

教員の見本を手掛かりに、身振りやサイン、言葉でチョッキの貸し借りができた。

協議で出てきた意見

教材	支援方法	環境
動物を写真+鳴き声で提示することで、概念の理解につながる。	チョッキを着た際の「似合う」のフィードバックが、「見る」につながって良い。	ボードに提示したカードと児童がかぶっていたため、場所を変えて他の児童が見やすいようにするとよい。

他者との関わり(協働的な学びの観点)

- ・教員と児童のやり取りの際、教員が「かして」「ください」など言葉を掛けて渡すようにすると分かりやすい。
- ・ステップアップとして、**関わり方のバリエーションを広げる。**

改善したこと

①「まねっこ動物」(表現、発表)

- ・教員との活動➡友達に向かって発表する活動。
- ・発表している友達に注目し、全員で表現する場面の設定。

改善したこと

②「チョッキかして・どうぞ」(選択、やり取り、称賛)

- ・チョッキを貸したい友達を自分で選ぶ。
➡教員主導から、**児童主体**への移行

改善したこと

②「チョッキかして・どうぞ」(選択、やり取り、称賛)

- ・顔写真カードを見て選ぶ
- ・直接手を引いて呼ぶ

・チョッキを着た友達に、「似合っている」ことを拍手で称賛する ➡ **発語がなくても伝えられる方法**

「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)

- ①座席配置
- ②友達に向けて発表する
- ③全員で表現する
- ④児童が選ぶ場面
- ⑤友達に働き掛ける場面
- ⑥友達を称賛する場面

取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び

- 教員や友達が見やすいような座席配置の工夫
- 児童に応じた選択肢の提示数の調整、活動の順番の工夫
- 活動への意識が高まるような言葉掛けや提示のタイミング

協働的な学び

- 友達と一緒に動作や鳴き声を表現できるようにした。
- 児童同士でやり取りをする場面を設定した。
- 拍手で友達を称賛する場面を設定した。

獲得した確かな学び

知識技能

動物のイメージが広がり、鳴き声や特徴的な動作を理解し、発声や動作で表すことができた。

思考判断表現

友達への働き掛けの際、「おいで」と言葉を掛けたり、肩をたたいたり、手を引いたりするなど、相手に伝えようとしていた。

獲得した確かな学び

主体的に学びに向かう態度

活動や友達の発表などに意識を向け、自分から選択したり、動作を模倣したり、拍手で称賛したりしていた。

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

- 生活に身近な題材を取り入れる。
- 具体物を実際に操作する活動を取り入れる。
- 他者とやり取りをする経験を積み重ねる。

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

「ぼうしをかぶる」(選択、やり取り、動作化)

- ・かぶりたい帽子を一つ選び、教員に「ください」と伝え、もらった帽子を掛け声に合わせてかぶる活動。
- ➡ **動作語の理解**を広げる、**他者を意識**する

中学部・高等部国語分科会

実践報告会 高等部2年

国語「詩の世界を味わおう、群読を楽しもう」

事例発表フォーマット

発表者 田村 和代

対象グループの生徒の実態

グループの実態

漢字の読み書きは小3程度。タブレット端末の操作にばらつきがあるため、個別の指導が必要。国語的な学習である精読・音読には若干の抵抗感・緊張感がある。

アセスメント

太田ステージⅣ-1の生徒1名、Ⅳ-2の生徒4名、Ⅴの生徒3名 合計8名のグループ 総合類型8グループ

目指す姿

- 道具やツールを使って課題を解決するタブレット端末の活用
- 自分の気持ちを伝えることができる
- 自信をもって取り組み、発表する
- 仲間と協力して取り組むことができる

自立活動の基礎課題(個別最適な学びの観点)

- ・「人間関係の形成」に課題がある。必要な情報が欲しい時には自分から話し掛けることがあるが、本当は、もっと話したいと思っている様子が見られる。
- ・情緒が不安定な時や、緊張を感じる時に吃音が出ることもある。他の生徒との「信頼関係」築くことが大切である。
- 自分が読むタイミングを友達が待ってくれると安心して音読することができる。

自立活動の目標(個別最適な学びの観点)

本時の自立活動の目標(対象生徒Aさん)

- 違うパターンに戸惑うことがある。(心理的な安定)
- 持ち物の管理が不得意で忘れ物が多い。(環境の把握)



自立活動の目標

- ①自分が読むタイミングを分かり、自信をもって音読することができる。
- ②プリントやタブレット端末の管理を確実にを行うことを目標とする。

高等部2年の実践報告

学習指導要領の位置付け	国語 言葉の働き(語彙) 中学部1段階 伝え合う【選んでみよう】
授業名	谷川俊太郎「春に」
活動1	精読(歌詞スライド制作)
活動2	群読

改善前の様子(課題点など)

- 「音読」に苦手意識をもつ生徒が多い。
- タブレット端末の扱い方については、習熟度にばらつきがある。
- 群読での声の大きさが小さく、自信がない様子が見られた。

協議で出てきた意見(一部抜粋)

教材	支援方法	環境
・広く親しまれている「詩」についてイラストや写真を用いてイメージを高め、詩に親しみをもてるようにしていた。	・各生徒がタブレットのアプリを使用して自分で画像や文章を入力することができていた。	・広く親しまれている「詩」について絵や写真を用いてイメージを高め、詩に親しみをもてるようにしていた。 ・各生徒がタブレットのアプリを使用し、自分で画像や文章を入力したりすることができていた。

他者との関わり(協働的な学びの観点)

作成物を大画面で共有することができ、「この画像を選んだんですね。」「この言葉にこの写真を選ぶのは面白いね。」などの生徒同士の「伝え合い」「学び合い」の環境をつくることができていた。

「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)

- ・制作した歌詞カードを全員で鑑賞・共有・評価する。
- ・同じ詩の歌詞を読み、他の友達が異なる情景を描いていることを知る。
- ・「ドーナツ(輪)」になって、生徒同士の顔が見える形で群読の話し合いを行う。
- ・ボイスメモ、動画を活用し声の強弱、姿勢などを確認する。

改善したこと

①谷川俊太郎「春に」(群読)

- ・ボイスメモや動画の活用を継続し、声の大きさやスピードの加減に気を付けながら、揃えて群読するようになった。
- ・音楽科との横断的な学び(手話歌唱・ピアノ伴奏)練習の集大成として発表の場を提供した。(学年集会)

取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適な学び(自立活動の視点で取り組んだ・工夫したこと)

- 読むタイミングが他生徒と合わせられていることを評価した。

協働的な学び(協働的な学びのしかけを設定したことでやり取りの増加があったか など)

- 言葉が出にくい生徒(吃音)が話し出すまで、優しく待つ姿があった。
- 群読の順番を忘れていた生徒に「〇〇さんだよ。」と声を掛ける場面が見られた。
- 発表会の司会を生徒同士で話し合っ決めて決める場面が見られた。
- 発表会を成功させようという意欲や仲間意識が大きくなった。

獲得した確かな学び

知識・技能

- ICT機器を使用し、Keynoteなどのアプリケーションソフトを用いて、詩に合わせた画像を選択し、歌詞スライドを編集することで詩の言語理解が深まった。

思考・判断・表現

- 自分のパートだけでなく、友達のパートを覚え、忘れていた友達に言葉を掛けることができた。
 - 自分の順番に正しく、適切な声の大きさと速さで群読することができた。
- ### 主体的に学びに向かう態度
- 仲間のスライドを見て、感想を発表したり、自分のスライドをより良いものにしたいという意欲が見られたりした。

目指す姿の実現に向けた次へのステップ

- 詩などの文学に興味をもち、図書館や本屋へ行った時に、本を手取る、自分から読んでみるなどの行動ができるようになる。
- 様々な文章を読む力を伸ばし、自分の気持ちと照らし感想を書くことができるようになる。

実践報告会

中学部1年

職業「職業について知ろう」

発表者 長並真美

目指す姿

- 挨拶や返事ができる (知識技能：日常生活)
- 好きな事の幅を広げる (思考・判断・表現：興味・関心)
- 報告、相談ができる (思考・判断・表現：コミュニケーション)
- 支援する人を選ばない (いつでもどこでもだれとでも)
(学びに向かう力、人間性等：他者との関わり)

生徒の実態

グループの実態

言葉だけの説明では話している内容の理解が難しい生徒がほとんどである。言葉で話すことができる生徒でも、他者に自分のことを伝えることが苦手な生徒が多い。

アセスメント

太田ステージ

I-2 (1名)、I-3 (1名)、II (4名)、
III-1前期 (3名)、III-2前期 (7名)、IV (3名)

自立活動の基礎課題(個別最適な学びの観点)

特に「**心理的な安定**」「**人間関係の形成**」に課題がある。

繰り返すことで、活動に見通しをもち自信をもって参加することができる。場面を設定したり、教員を介したりすることで他者とのやり取りができる。活動に慣れてきたら、パターンやバリエーションを増やしていき、言葉や表現の幅を広げていくことが必要である。

自立活動の目標(個別最適な学びの観点)

本時の自立活動の目標

- 見通しがもてることで、落ち着いて活動できる。(心理的な安定)
- 場面を設定したり、教員を介したりすることで他者とのやり取りができる。(人間関係の形成)

自立活動の目標

- ① 授業環境に慣れ、見通しをもって授業に取り組む。
- ② 挨拶、返事、他者とのやり取りのできることを増やす。

中学部1年の実践報告

学習指導要領の位置付け	中学部2段階 A「職業生活」(勤労の意義)(仕事の内容)
授業名	「職業について知ろう」
活動1	出席確認(一人ずつの返事)、挨拶リレー
活動2	今日の課題と振り返り

「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)

- ・同じパターンで毎回やり取りする場面を設定する。(返事、挨拶リレー)。
- ・挨拶リレーでは、バトンを準備して次の人に手渡すことで、やり取りを目で見て分かりやすくする。
- ・授業のまとめでタブレットを用い、お互いに共有できるようにしていく。

協議で出てきた意見

教材	支援方法	環境
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶リレー時のバトンは、順番を把握するのにわかりやすい。 ・顔写真付きの出欠確認は返事がしやすい。 ・わたしの仕事を記入するワークシート、日常の係仕事と職業を学ぶ仕事が入った(意識)できて良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バトンをもらった後、みんなの前に出るなど発表の場が設定されると良い。 ・一人一台タブレットを用いて課題を保存し、振り返りをする事で授業のまとめを意識しやすくなっていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶リレーの時の配置を、みんなが見える位置にできると良い。 ・集団授業へ参加できる為の工夫があった。(サインを使う、PPの内容) ・挨拶できたら「できた」「OK」など、承認をもらう環境(支援設定)があると良い。
他者との関わり(協働的な学びの観点)		
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をしてバトンを渡す、という流れは、友達と関わりあえる工夫が良い。 ・挨拶練習は名簿だけでなく、ランダムに出るなど緊張感もあり良い。 ・どの友達の挨拶が上手だったなどを、生徒が発表できる場があるのも良い。 ・作業をして次の人に「お願いします」と渡す。「ありがとう」と言われるなど、自分の仕事の責任を果たし、皆で一つの作る実感がもてる。 ・タブレットでの振り返りを、全員で共有にしていこうという視点が良い。Formsやカフトなどで共有するなど面白い。 		

<p>改善前の課題点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶リレーのとき、座席配置を皆が見える位置にできると良い。 ● 一人一台タブレットを用いて振り返りを行うとき、皆で一緒に行ったことを共有できると良い。 	<p>改善したこと</p>  <p>「挨拶リレー」(座席配置、表現、振り返り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半円の形で座るようにし、生徒たちがお互いに見合って学び合えるようにした。 ・返事や挨拶練習中にお互いを見合ったり、練習が終わった後で、特に上手にできた人や、代表で発表する人を指名したりして、全体でポイントを振り返り、学び合う機会をつくった。
--	---

<p>改善したこと</p>  <p>「今日の課題と振り返り」(やり取り、称賛)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行った課題を生徒同士で見る機会をつくり、できたものを互いに見合えるようにした。 ・良い点を生徒から引き出したり、教員から伝えたりして、皆で認め合える雰囲気をつくった。 	<p>取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び</p> <p>個別最適な学び(自立活動の視点で取り組んだ・工夫したこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 心理的安定を保ち学習に向き合えるよう、大枠の授業の流れを一定にし、見通しをもって取り組めるようにした。 ● 人間関係の形成のため、挨拶や課題におけるやり取りでは、顔写真やパトン、選択できるシールなどを準備し、やり取りを見える化した。 <p>協働的な学び(協働的な学びのしかけを設定したことでやり取りの増加があったか など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 座り方を半円に変えたことで、挨拶リレーに注目できる生徒が増えた。 ● タブレットでの振り返りでは、皆で一緒に操作をすることで、認め合える雰囲気をつくれた。
--	--

<p>獲得した確かな学び</p> <p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 返事、挨拶、振り返りスライドの操作など、毎回繰り返し取り組みをしたことで自分のできるようになった生徒が増えた。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 座席の配置を工夫したり、課題や振り返りスライドを共有できるようにしたことで、互いを見合いながら、自分で判断して課題に取り組める生徒が増えた。 <p>主体的に学びに向かう態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 座席の配置を工夫したことで、お互いを見合うという意識が高まり、自分もやってみようという意欲的な態度を示す生徒が増えた。 	<p>目指す姿の実現に向けた次へのステップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 生徒の主体的で意欲的な学びを促すために、タブレット端末の利用や教材の工夫を引き続き行う。 ● 活動に慣れてきたら、パターンやバリエーションを変え、言葉や表現の幅を増やしていく。
--	--

3 考察

今年度取り組んできた中で、特に大事にしたことは、以下の2点である。

個別最適な学びの観点としての自立活動において、授業の活動ごとに手だてや配慮を自立活動の区分で整理したこと。2点目は、協働的な学びのステップを意識した上で、授業の中に意図的な「しかけ」を組み込んだことである。

まず、活動ごとに自立活動の手だてや配慮を整理したことによって、今まで実践の中で意識せずに取り組んでいたことを、明確にすることができた。このことは、個々の児童・生徒の認知面だけでは捉えることが難しいような部分を、授業を展開する中で教師の経験のようなものに頼って、何気なく配慮したり支援したりしてきたことを、「自立活動」という視点で説明し直し「言語化」することができたと言えるのではないかと考える。例えば、太田ステージIII-2程度の学習集団で国語の授業を実施していく際、認知的には文字を読んだりすることができる集団であっても、行動面でこだわりが強く、活動の順番に固執しがちな児童・生徒がいたり、見通しがもてないことでパニックになったりする児童生徒がいるとする。その場合、順番を明確にするために、自立活動の区分、環境の把握の部分で順番を明確に提示したり、活動の手順を明確にしたりするなどの配慮を行う

ことで、授業がスムーズに進行できるようになる。また、発語がない児童がいる場合、自立活動のコミュニケーションの区分で、質問に答える際のカードを準備するなどの手だてによって活動に参加できるようになると考えられる。このように、自立活動の視点を明確にすることで、授業がスムーズに進行できるようになることを実践を通して理解することができた。また、今年度、国語と職業の授業づくり授業改善に取り組んできたが、教科のねらいを達成させるための自立活動の視点であることも大切なポイントと言える。また、教科指導を進めるに当たって、自立活動のどの区分が多かったかという傾向も整理することができた。

国語の授業では、人間関係の形成、コミュニケーションの項目を意識した授業が多く、環境の把握についても、指導をしていく中での教材の工夫や支援方法、提示方法などにも大きく影響することが分かった。

職業の授業では、人間関係の形成の項目を意識した授業が多いことが見えてきた。

国語	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 22.6% ・環境の把握 16.1% ・コミュニケーション 29.0%
職業	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 36.4% ・環境の把握 22.7% ・コミュニケーション 18.2%

協働的な学びでは、意図的に「しかけ」を設定する授業を行うことで全授業で、やり取りの増加や、やり取りの質の向上が見られた。協働的な学びを、児童生徒の発達に合わせて捉えることで（協働的な学びのステップ）子供同士のやり取りを考えるだけでなく、大人とのやり取りや、同じ学習集団の中で友達の様子を参照するような活動場面も見られた。教師が意図的計画的に発問をしたり、児童・生徒から出てきた意見を視覚的に提示したり、発表の形を明確にするなどの工夫を行うことで、協働的な学びが促されていくことが分かった。

協働的な学びのステップの「しかけ」の充実

ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・物を介したやり取り場面を作る。(貸して、どうぞ) ・児童を手本にして真似をする。 ・教師の発問に対して具体物を選択する。 ・挨拶をする。 ・報告をする。
ステップ 2-① 2-②	<ul style="list-style-type: none"> ・役割あそびをする ・具体物の受け渡しをする。(ください、どうぞ) ・同じパターンでやり取りをする。(挨拶リレー) ・授業のまとめでタブレットで共有する。 ・友達と一緒に音読をする。 ・友達の評価を聞いたり発表したりする。 ・分からない場面で友達に助けを求めたり、一緒に考えたりする。 ・フォーマットに沿って発表する。聞く人には観点を明確にして他者評価できるようにする。 ・他者の発表を聞いて、良かったことを検索してみる。 ・発表する。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて意見交換をする。 ・音読する場面の分担を話し合いで決める。 ・ロールプレイ ・互いに評価する。

これらの取り組みを通して、個別最適な学びの自立活動の視点と協働的な学びの意図的な「しかけ」を往還的に取り組むことで「伝え合い学び合う」児童・生徒の様子が増えた。(エピソード記録より)

授業シートエピソード記録

国語	
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表に注目する様子が見られるようになった。 ・MTと目が合う児童が増えた。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表に合わせて一緒に歌を歌う場面が見られた。 ・発表を聞いて評価するために、よく聞く姿勢が見られた。発表を聞きながら評価を考えている場面が見られた。 ・友達から「いいね」カードを貼ってもらい「やった」と喜ぶ姿が見られた。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・順番を忘れていた生徒に言葉を掛ける場面があった。 ・司会や代役を生徒同士の話し合いで決めることができた。
職業	
ステップ1	<ul style="list-style-type: none"> ・座席配置の工夫で、挨拶や発表に注目している生徒が増えた。 ・発声が少ない生徒が自分から「あー」と言いながらプレゼントを渡すことができた。 ・流れ作業にすることで役割を意識して、友達に手渡しする場面ができた。
ステップ2	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて、違った仕事に興味をもてるようになった。
ステップ3	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の写真や動画を見て発表することで、友達の取り組みに興味をもってみようとする事ができた。

4 成果と課題

成果物

- ・小学部中学部高等部「目指す姿」の作成 R6 版
- ・授業改善と実践の蓄積（21事例）
- ・「授業づくりのコツ」の作成
- ・「本校における協働的な学びのステップ」の作成
- ・実践から見えてきた「個別最適な学びと協働的な学びの授業づくりのヒント」の作成

授業改善の視点

- ・個別最適な学びの観点で、自立活動について実態把握と、活動ごとの配慮や手だてを明確にしたことで、教科指導の中に自立活動の視点を取り入れた授業づくりを実践することができた。
- ・協働的な学びの「しかけ」を明確にすることで「伝え合い学び合う」児童・生徒が増えた。
- ・「伝え合い学び合う」授業を考えることで、「思考・判断・表現」の評価が充実した。
- ・全実践で共通の授業シートを活用することで、授業づくりの流れや、研究分科会での協議の視点を統一することができた。

12年間の視点

- ・年間2回の縦割り報告会で、様々な生活年齢、発達段階の事例について共有することができた。
- ・12年間をつなぐものとして「目指す姿」を作成し、どのような児童・生徒を目指していくの、確認しながら協議を進めることができた。
- ・「単元事例一覧」を基に、学習指導要領の段階や領域内容を意識することができた。

今後の課題

- ・自立活動の活動ごとの手だてや配慮について引き続き取り組み定着を図る。
- ・協働的な学びの「しかけ」を意識した授業を行い、どの授業でも思考、判断、表現を意識し「伝え合い学び合う」授業ができるように進める。
- ・ICTの活用をさらに進めていく。
- ・カリキュラムマネジメントの視点から教育課程全体を俯瞰し、それぞれの教科ごとに系統的な年間授業内容一覧の作成を行っていく。

5 資料

- (1) 目指す姿
- (2) 授業シート
- (3) 授業づくりのコツ
- (4) 協働的な学びのステップ
- (5) 単元配列表
- (6) 個別最適な学びと協働的な学びの授業作りのヒント

<p>知識・技能</p>	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数や読み書きの基礎を身に付ける <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着替え排せつなどの身辺処理ができる ・食具を使って食事ができる <p>【集団参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注目して話を聞く <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の軸を作る（体幹） ・手や体を沢山使う活動ができる ・自他の区別ができる ・目的地を理解して教室移動ができる
<p>思考・判断・表現</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える手段を身に付ける ・助けてほしいという援助要求ができる ・困っていることや要求、報告などの意思表示ができる ・自分から周りに発信する <p>【興味・関心】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな事や物を見付ける、増やす <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己選択、自己決定（部分的・意図的）
<p>学びに向かう力、 人間性等</p>	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人でできることを増やす（教師の支援を少なく） ・いろいろな人と一緒に活動する ・苦手なことも教師と一緒に活動できる ・褒められることを励みにできる ・活動に見通しをもち、落ち着いて過ごすことができる <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後まで活動をやりとげる ・修正を受け入れられる ・自分でやってみようという気持ちをもつ ・いつでも、どこでも、誰とでも活動ができる

中学部・目指す姿（R6）

<p>知識・技能</p>	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み書きができる ・数の理解 <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事ができる ・身だしなみを整えることができる <p>【集団参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを理解し守ることができる <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決められた場所に安全に移動ができる ・自分で傘をさして歩ける
<p>思考・判断・表現</p>	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告、相談ができる ・積極的にコミュニケーションしようとする事ができる <p>【興味・関心】</p> <p>好きな事の幅を広げる</p> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イレギュラーな事を理解し受け入れる ・自己選択、自己決定
<p>学びに向かう力、 人間性等</p>	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援する人を選ばない（いつでもどこでもだれとでも） ・支援を嫌がらずに受け入れる ・課題や活動に前向きに取り組める ・気持ちや感情をコントロールしようとする <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して最後まで授業に参加できる ・集団の中で MT に注目して活動ができる ・間違いを修正できる

高等部・目指す姿（R6）

知識・技能	<p>【学習】</p> <ul style="list-style-type: none">・学習したことを日常の中で活用する（買い物、時計）・時間を見て行動することができる・調べる力・道具やツールを使って課題を解決する <p>【日常生活】</p> <ul style="list-style-type: none">・生活習慣の確立（早寝早起き、適度な運動）・挨拶や返事を自分からできる・場面に合った服装や言葉使い・自立自立へ向けた行動（自分のことは自分で、手伝い、買い物） <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・次の活動や時間を意識して自分から移動ができる・校内外で安全に移動する
思考・判断・表現	<p>【コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の気持ちを伝えることができる・困っていることを伝える <p>【興味・関心】</p> <ul style="list-style-type: none">・好きなことや活動に、自分から取り組む <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none">・自信をもって取り組んだり、発表する・自己選択、自己決定・途中で活動を終えることができる・ルールやマナーを守り、自分で考えて行動する
学びに向かう力、人間性等	<p>【他者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none">・仲間と協力して取り組むことができる・助言や支援を受け入れて修正ができる・課題や活動に前向きに取り組める <p>【学習に向かう姿勢】</p> <ul style="list-style-type: none">・大きな集団の中で一斉指示を理解して活動する

対象グループ：○学部 ○年

記入者：○学部○年

学部ごとの目指す姿

目指す姿	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
------	--



実態把握	アセスメント
	対象ケース・グループの実態



自立活動の本時の目標（対象児 A） 【個別最適な学びの観点】

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態						
区分項目	<input type="checkbox"/> (1) 生活のリズムや生活習慣の形成	<input type="checkbox"/> (1) 情緒の安定	<input type="checkbox"/> (1) 他者とのかかわりの基礎	<input type="checkbox"/> (1) 保有する感覚の活用	<input type="checkbox"/> (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能	<input type="checkbox"/> (1) コミュニケーションの基礎的能力
	<input type="checkbox"/> (2) 病気の状態の理解と生活管理	<input type="checkbox"/> (2) 状況の理解と変化への対応	<input type="checkbox"/> (2) 他者の意図や感情の理解	<input type="checkbox"/> (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応	<input type="checkbox"/> (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段	<input type="checkbox"/> (2) 言語の受容と表出
	<input type="checkbox"/> (3) 身体各部の状態の理解と生活環境の調整	<input type="checkbox"/> (3) 障害による学習上生活上の困難…	<input type="checkbox"/> (3) 自己の理解と行動の調整	<input type="checkbox"/> (3) 感覚の補助及び代行手段の活用	<input type="checkbox"/> (3) 日常生活に必要な基本動作	<input type="checkbox"/> (3) 言語の形成と活用
	<input type="checkbox"/> (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整		<input type="checkbox"/> (4) 集団への参加の基礎	<input type="checkbox"/> (4) 感覚を総合的に活用した周囲の…	<input type="checkbox"/> (4) 身体の移動能力	<input type="checkbox"/> (4) コミュニケーション手段の選択と活用
	<input type="checkbox"/> (5) 健康状態の維持・改善			<input type="checkbox"/> (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	<input type="checkbox"/> (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	<input type="checkbox"/> (5) 状況に応じたコミュニケーション

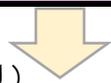


自立活動の目標 (対象児 A)	①	②
--------------------	---	---

国語の単元目標

【 】	・
・	
学習指導要領の位置づけ（単元事例一覧より）	本時の時数
	○／○時間

授業名



協働的な学びのステップ（昨年度作成資料より）



教科の中で「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

伝え合い（やりとり、コミュニケーション場面の設定）	
改善前	改善後
学び合う（思考判断表現する場面の設定）	
改善前	改善後

取り入れた ICT 教材

・



本時の展開（改善前）

※青を研究部が記録

活動 1		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手だて・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント 1	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント 2	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	

改善や協議のポイント（協議の際に記入）		
教材	支援方法	環境
他者との関わりについての協議 【協働的な学びの観点】		
その他の記録		
活動2		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手だて・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント1	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント2	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
改善や協議のポイント（協議の際に記入）		
教材	支援方法	環境
他者との関わりについての協議 【協働的な学びの観点】		
その他の記録		

※ねらいに対して評価を○（8割以上達成）、△（5～7割達成）、×（達成できない）で記入する
 ※活動内容の項目は増やしてよい



授業名



本時の展開（改善後）

※青を研究部が記録

活動 1		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手だて・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント1	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント2	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
協議を受けて改善したこと		
教材	支援方法	環境
他者との関わり		
協議の記録 など		
活動 2		
ねらい		評価
知識技能		
思考判断表現		
学びに向かう人間性等		
対象児の手だて・配慮（自立活動のポイント）→個別最適な学びの観点		
ポイント1	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	
ポイント2	手だて配慮	
	関連する自立活動の区分と項目	

協議を受けて改善したこと		
教材	支援方法	環境
他者との関わり		
協議の記録 など		

※ねらいに対して評価を○（8割以上達成）、△（5～7割達成）、×（達成できない）で記入する



伝え合い学び合う（やりとり場面や、思考する場面）エピソード	
伝え合う回数の比較	
改善前	改善後

獲得した確かな学び（※改善後記入）



知識技能	思考判断表現	主体的に学びに向かう態度

目指す姿の実現に向けた次のステップ

（※改善後記入）

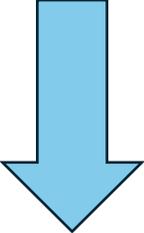
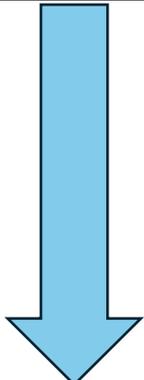


--



目指す姿の実現へ！

授業づくりのコツ～個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業～

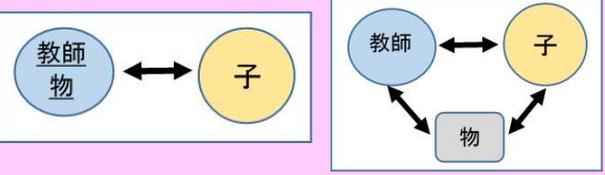
1 実態把握						
	<input type="checkbox"/>	アセスメントの結果などを確認する。				
	<input type="checkbox"/>	個々やグループの指導の中で特に課題となることや、配慮が必要な点などを整理する。				
2 自立活動の課題と目標 ※特に配慮が必要な児童生徒についてなど、個別に作成						
	<input type="checkbox"/>	6区分27項目のどの部分が課題となるか確認する。(以下記入)				
	<input type="checkbox"/>	自立活動の目標を設定する。(以下記入)				
	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
実態						
6 区 分 27 項 目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自立活動の 目標	①			②		
3 単元目標の設定						
	<input type="checkbox"/>	教科名（合わせた指導の場合関連する教科名）				
	<input type="checkbox"/>	単元の目標				
	<input type="checkbox"/>	学習指導要領の位置付け（段階・領域内容）				
	<input type="checkbox"/>	単元計画や授業時間				

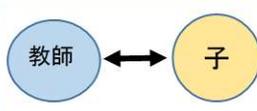
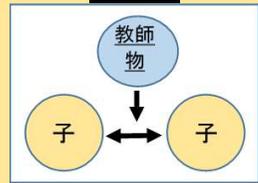
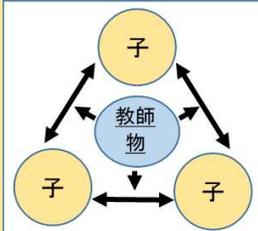
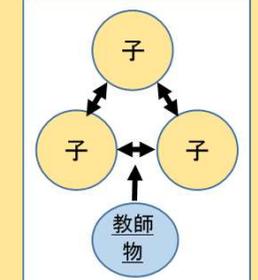
4 協働的な学びのしかけ	
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びのステップ（どの段階に該当するか以下に○）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ1・身近な大人(担任)</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ2・友達(ペア～3人)</p> </div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ステップ3・友達(小グループ)</p> </div>	
	<input type="checkbox"/> 活動の中に組み込む「しかけ」の設定を考える。 ・役割の設定 ・相互交渉場面の設定 ・型の導入 ・発問や発表場面の設定
5 活動の設定	
	<input type="checkbox"/> 活動ごとにねらいを3つ程度立てる。(3観点) ・ ・ ・
	<input type="checkbox"/> ねらいを達成させるために、どんな手だてや配慮が必要か。 (自立活動の区分で考える。)
6 指導方法の工夫	
	<input type="checkbox"/> 教材の工夫は？(集団全体と個別の工夫)
	<input type="checkbox"/> 支援方法の工夫は？(一斉指示で取り組めるか、順番に活動するのか、その場合の参加の工夫、役割の設定、発問計画、即時評価の方法、まとめや振り返りの設定)
	<input type="checkbox"/> 環境の工夫は？集中できるような座席配置、他者を意識できるような配置、児童生徒の関係性など、教材の提示や活動場所の工夫。
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの工夫は？「しかけ」をどのように授業の中に組み込んだか。発表の形式や、型の導入、しかけの設定など。
	<input type="checkbox"/> ICT の活用
7 評価・改善	
	<input type="checkbox"/> ねらいに対して(○80%以上達成、△50～80%、×50%以下)で評価する。
	<input type="checkbox"/> 協働的な学びの場面のエピソードなどを記録する。
	<input type="checkbox"/> 上記1から順番に難しかった部分などを改善し授業を再度実施する。

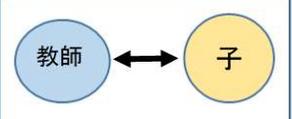
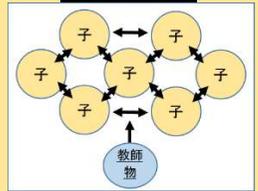
※本校研究会で使用している「授業シート」を基に作成した。

協働的な学びのステップ (R6)

※どのステップにも、意図的な設定・型の導入・適切な教師の介入が必須

	協働的な学びの段階 ※協働の前段階 対-物		活動名 ※R6 実践から	意識した自立活動の区分
	対-大人	対-子供		
ステップ 1	<p style="text-align: center;">身近な大人(担任) ※人に従って活動 ※二項関係から三項関係</p>  <p>・他者の存在に気付く ・一方的な要求をする ・簡単なやり取り (言葉、動作、模倣など)</p>		<p>「いろいろな動物を知ろう」(小4・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「かして」「どうぞ」と伝える。 ・活動ができたらハイタッチをする。 ・伝えたい友達に「おいで」と言葉を掛けたり、写真カードで選んだりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・環境の把握 ・コミュニケーション
			<p>「あおむしに食べ物をあげよう」(小3・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やりたい活動を教師に伝える。 ・台詞やサインを取り入れることで、友達の活動に注目できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の把握 ・人間関係の形成
			<p>「職業について知ろう」(中1・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめでタブレットを用い、お互いに共有できるようにする。 ・挨拶リレーで友達に注目しやすい座席配置にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・環境の把握
			<p>「軽作業に取り組もう」(高1・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶練習をする。 ・作業が終わったら報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成

ステップ ①	<p>集団の中で 他の大人と ※決まりに従って 活動</p> 	<p>クラスの友達 (ペア)</p> 	<p>「ももたろう」(小3・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ください」「どうぞ」「ありがとう」のやり取りをする。 ・ジェスチャーや鳴き声で役割を表現する。 ・物語にあった台詞を言葉や身振りで表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション ・人間関係の形成
ステップ ②	<ul style="list-style-type: none"> ・やり取り(言葉、動作、模倣など) ・模倣については粗大、微細 →作業模倣へ 	<p>クラスの友達 (3~4人)</p>  	<p>「助詞を使って文を作ろう」(小6・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援シートを活用して自分の考えを教師に伝える。 ・友達と一緒に音読する。 ・友達からの評価を聞いたり、伝えたりする。 ・わからない時は教師や友達に聞いたり、一緒に考えたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の把握 ・コミュニケーション
			<p>「いつどこだれなにをする」(中2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの前で書いた分を発表する。 ・「よい発表の仕方」で「ゆっくり話す」など観点を明確にして他者評価しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション
			<p>「検索名人になろう」(高2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通のテーマで検索ワードを考え発表し合う。 ・友達の発表を評価し、実際に良いと思った言葉で検索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・人間関係の形成 ・コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> ・別の考えの人がいることに気付く(順番を待つなど) ・一緒に行動する経験、相手に合わせる、要求する ・設定場面でのやり取り、相互の模倣等 ・自然発生的なやり取り、相互の模倣、参照 		<p>「働くことについて知ろう」(中3・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表を聞いて、次に取り組みたい仕事を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・コミュニケーション ・環境の把握

ステップ3	<p>他の大人 (<u>学年以外の教師</u>)</p>  <p>教師 ↔ 子</p>	<p>クラスの友達 (<u>小グループ 8名程度</u>)</p>  <p>子 ↔ 子 教師物</p>	<p>「春に」(高2・国語)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読むパートの分担を話し合いで決める。 ・歌詞スライドを発表し、感想を言い合う。 ・詩を読んで情景を思い浮かべてスライドを作成する。 ・学習している動画を振り返り発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・環境の把握
	<p>・課題解決のための、自発的なやり取り、模倣、参照→適切な社会的参照 (場に応じたふるまいなど)</p>	<p>「通勤時に気をつけること」(高2・職業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイを実施し、評価し合う。 ・やってみたい職種を考え発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の形成 ・環境の把握 ・心理的な安定 	

項目・内容	小学部 1段階	小学部 2段階	小学部 3段階	中学部 1段階	中学部 2段階	高等部 1段階	高等部 2段階
言葉の働き (語彙)	【いろいろな言葉】 ※日常生活に必要な挨拶、物の名前、動作などの言葉等	【いろいろな言葉】 ※生活の中の言葉、名詞と動詞、形容詞、感情、いろいろな挨拶等	【いろいろな言葉】 ※促音長音のある語句、平仮名、片仮名、身近な漢字の正しい読み方。仲間分け、似た意味の言葉、反対言葉等	【言葉を広げよう】 ※長音、拗音、促音、撥音助詞、同音異義語、属性言葉、同義語、対義語等	【言葉を広げよう】 ※様子や行動、気持ち、性格を表す言葉 修飾と被修飾「です。ます」	【言葉を豊かに】 ※様子や行動、気持ち、性格を表す語句の広がり、名詞、動詞、形容詞、主語、述語修飾語のまとまり	【言葉を豊かに】 ※「だから、しかし」等情報と情報との関係を表す語句「考える、だろう」叙述で使われる言葉の活用。
書くこと (文字) ※特記事項参照	【書いてみよう】 ※ぬりえ、グルグル書き、意味づけ等 文字の気づき	【運筆に親しもう】 ※運筆(なぞり書き、視写) 簡単な平仮名 姿勢と筆記具の持ち方	【平仮名、片仮名を書こう】 ※ひらがな、カタカナ文字、補助線なぞり、自分の名前、単語の書き、簡単な漢字の導入等	【身近な漢字を書こう】 ※名前、学校生活の中の漢字、漢数字、曜日、日常生活の中の漢字等	【生活に必要な漢字を書こう】 ※身の回りで見る漢字、	【送り仮名等に気を付けよう】 ※漢字と仮名の使い分け、送り仮名、仮名遣い、句読点の役割、漢字の組み立て等	【漢字と仮名を使い分けよう】 ※文や文章の中で書き慣れていく。
(書写)			【姿勢や持ち方に気を付けて】 姿勢や筆記具の持ち方を正しく平仮名や片仮名の文字の形に注意して丁寧に書く。	【漢字の形に注意して書こう】 平仮名、片仮名、身近な漢字の形を整えて丁寧に書く。点画相互のバランスに気を付ける	【漢字の筆順に注意して書こう】 ※筆順の決まり「上一下」等	【文字を整えて書こう】 ※手紙や書類などの文の文字	【目的や形式に合わせて書こう】 ※手紙や書類などの文や余白のバランス等
伝え合う (伝える)	【返事をしてみよう】 ※呼名等の返事、挨拶、音声模倣・動作等自分なりの表現等	【学校で話そう】 ※朝の会/帰りの会での司会、発表。給食の挨拶、日常の挨拶 簡単な質問と応答	【身近な人と話そう】 ※朝の会の司会、帰りの会での今日の出来事発表等	【身近な人に伝えよう】 ※朝の会の司会、帰りの会での今日の出来事発表。自己紹介、日常の挨拶、買い物場面、外食場面、図書館利用、電話のかけ方等	【思いや考えを伝えよう】 ※今日の出来事発表。自己紹介、学校紹介、スピーチ活動、丁寧な挨拶 買い物、病院などでのやり取り、電話の応対等	【場面に応じた伝え方を知ろう】 ※現場実習先や初めて会う人に対する自己紹介、面接場面 報告や連絡場面、挨拶、お店、病院、手続き等日常生活の中でのやり取り等	【場面を考えて伝えよう】 ※現場実習先や初めて会う人に対する自己紹介、面接場面呼び掛け、依頼の仕方、報告や連絡場面、挨拶、お店、病院、手続き等日常生活の中でのやり取り等
(聞き取る)	【はい、どうぞ】 ※頂戴のやりとり 事物の言葉の一致		【人に聞いてみよう話してみよう】 ※電話のかけ方、買い物場面、病院の問診		【話のあらましを聞き取ろう】 ※集会活動、行事の予定等	【話の内容を的確に聞き取ろう】 ※5W1H 様々な集会活動、社会見学での案内、説明会、校内放送、電話メモを取る、メモを振り返る等	【話の要点を整理して聞き取ろう】 ※社会見学、職場見学、説明会、職場実習での指示、電話、インタビュー、伝言、メモの活用
(発表する)	【おなじみを見つけよう】 ※物の受け渡し(〇をちようだい)マッチングゲーム 手遊び 歌遊び	【話をよく聞こう】 身近な人の簡単な指示や説明を聞き、応じた行動をする。 ※朝の会の今日の予定の話、3語から4語で構成する文による指示や説明		【身近な人にインタビューをしよう。発表しよう】 ※身近な教師、家族、友人へ行事の事、授業の事、好きなスポーツの事インタビューをして、まとめ、発表する。	【インタビューをしよう。発表しよう】 ※主事さんや養護教諭へのお仕事インタビュー、高校生に高校生活のインタビュー等	【新聞を作ろう】 ※学級新聞、修学旅行新聞、部活や委員会の新聞等)	【調べて発表しよう】 ※修学旅行、世界の国について、夢の自動車提案等
(話し合う)			【出来事を発表しよう】 ※一日の出来事、遠足など経験したこと発表	【伝えたいことを決めて発表しよう】 ※自分の夢発表、作文発表、本の感想発表等	【役割を決めて話し合おう】 ※学習発表会の事、係の仕事決め、リクエスト給食の献立等	【話し合って考えをまとめよう】 ※遠足の計画等	【計画的な話し合いをしよう】 ※遠足の計画、文化祭の出し物。卒業文集の内容等
文で伝える	【選んでみよう】 ※事物の選択(具体物、絵カード、写真等) 給食で食べたいもの、休みの思い出、買い物学習で買いたいもの等	【経験したことを話そう】 ※遠足で楽しかったこと、休みの思い出、一日の振り返り等	【絵日記や作文を書こう】 ※今日の出来事、行事の事、休みの思い出等の絵日記や作文等	【伝わりやすい文を書こう】 ※作文、日記、手紙、壁新聞、卒業生へのお祝いの言葉、文集等	【伝えたいことを明確にして文を書こう】 ※作文、日記、葉書文、手紙、招待状、壁新聞、文集等	【目的に合わせて書いてみよう】 ※作文、日誌、葉書文、実習先へのお礼状、報告書、履歴書、文集等	【目的や状況に合わせて書いてみよう】 ※作文、日誌、葉書文、実習先へのお礼状、文集等
実用書類 定型文等の書き方	学習指導要領では触れていないが☆本にある。3段階への導入部分と推測または、中学部、高等部で扱えるか。ここに載せるか検討	【文を書いてみよう】 【絵に文をつけよう】 絵(写真)に短い文をつける。 【カードを書こう】 誕生カードなど定型文をなぞったり書いたりする。 【手紙】 一文の手紙		【挨拶状を書こう】 ※年賀状、暑中見舞い、招待状		高1段階では、敢えて書類等の書き方に分けていない。目的にあった書き方に触れたうえで2段階で実際に活用できるようにする。	【書類等の書き方】 ※季節のはがき、実習先のお礼状、挨拶状、便箋縦書き、便箋横書き、履歴書、書写、文集、横断幕、ポスター等
読む (文学)	【お話を楽しもう】 ※絵や写真等の多い絵本(昔話) 繰り返しやリズムのある話、登場人物の動きの模倣	【お話を聞こう】 ※絵や写真に文字が添えられた絵本(昔話)、場面や登場人物が分かりやすい話、時間の経過が分かる話、言葉の響きやリズムがある話、劇化等	【お話を読もう】 ※絵本、易しい読み物、ページサートを作って劇化、音読等	【読み物を読んでみよう】 ※簡単な物語、紀行文、詩、短い劇の脚本、音読等	【様々な読み物を読んでみよう】 ※物語、詩、短い劇の脚本、紀行文、記録や報道の文章、詩、音読等	【登場人物の変化を読み取ろう】 ※物語、小説、随筆、詩、音読	【物語の魅力を感じよう】 ※物語、小説、随筆、詩、音読、朗読
(表現・音読)	【言葉のリズムを楽しもう】 ※手遊び 動作の模倣、くすぐりあそび うたあそび わらべ歌等	【劇あそびをしよう】 ※紙芝居、ページサート、劇化等	【演じてみよう】 ※ページサート、劇化等	【話のまとまりで音読しよう】 ※詩、台詞、俳句の音読等	【内容を考えて音読しよう】 ※詩、台詞、短歌、俳句 様々な文章	【文章の構成を考えて音読しよう】 ※様々な文章	【伝わるように朗読しよう】 ※古典の名文 様々な文章
(伝統文化)		【昔話や童謡に触れよう】 ※言葉の響きやリズムがある昔話、遊びややりとりのある童謡、わらべ歌等	【昔話を聞こう】 ※昔話、神話、伝承等 言葉やリズムに親しめる話	【日本の言語文化を知ろう】 ※俳句 江戸小話、音読等	【日本の言語文化に親しもう】 ※短歌(百人一首、季節) 俳句、その音読、ことわざ、標語	【ことわざ、慣用句を学ぼう、使ってみよう】 ※ことわざ、慣用句	【古文に親しもう】 ※古文、その音読、故事成語、慣用句
(説明文)		学習指導要領では触れていないが☆本にある。中1段階への導入部分と推測	【説明する文を読もう】 ※身近な物の短い説明文	【説明文を読んで作ってみよう】 ※簡単な工作や料理の作り方。道具の使用法	【説明文の意味を読み取ろう】 ※工作品作りや料理の説明書、注意書き、薬の飲み方、日常生活における様々な説明書を読み理解し、危険がないよう行動する等	【文章から必要な情報を見つけよう】 ※伝記、観察記録文、紀行文、旅行等の諸案内、趣味の工作や料理の作り方等	【説明文から情報を得よう】 ※用具や器具・情報機器・医薬品の取扱説明書、利用書、商品の紹介、指示書、納品書、請求書、領収書。広報、回覧板等
(暮らしの中の記号や標識)	【場所や決まりのある印】 ※場所や動作を表す絵や写真、日常のシンボルマーク、「〇」「×」「→」等	【標識を探そう】 ※教室内の表示、校内でのシンボルマーク、信号等	【看板を読もう】 ※学校の中に貼ってある標語、きまり、立て札、ルールの標識等	【社会生活と言葉】 ※交通機関や病院の表示、領収書。新聞記事、電子メール等			
読書活動 (図書室の活用)	【本はともだち】 ※読み聞かせ、いろいろな絵本	【本はともだち】 ※読み聞かせ、拾い読み、いろいろな絵本、図鑑、掛図等	【本をさがそう】 ※読み聞かせ、読書、いろいろな絵本、図鑑等	【本に親しもう】 ※読書、挿絵が少なくなり文や文章が中心の本、物語、昔話、詩、紀行文、短い劇の脚本、図鑑 雑誌等	【いろいろな読み物を読もう】 ※物語、昔話、伝承、絵本、科学的な読み物、詩、紀行文、短い劇の脚本、図鑑、新聞、雑誌、電子メール等	【幅広く読み物を読もう】 ※小説、詩、新聞、雑誌、歴史小説、伝記、観察記録文、紀行文、料理や工作の作り方、趣味の本 等	【日常的に読書に親しもう】 主体的、継続的に進んで読書を行う。自分の考えを広げ、書き手の多様な物の見方に触れる。
					学習指導要領には載っていない。ただ、高等部の国語の本では扱っており、内容としては【知・技】(A)にあたり、必要と思われる。	【辞書の使い方】 ※国語辞典、漢字辞典 タブレット端末、電子辞書等	【いろいろな通信文】 ※手紙、葉書、電話、FAX 携帯電話、メール、ライン等

《算数・数学》 段階ごとの単元事例一覧

項目・内容	小学部 1 段階	小学部 2 段階	小学部 3 段階	中学部 1 段階	中学部 2 段階	高等部 1 段階	高等部 2 段階
数量の基礎	<p>【よく見てみよう】 * 気付く、指差し、注視、触れる、取り上げる。 * くるくるチャイム等</p> <p>【動かしてみよう】 * 一対一対応、絵カードの組み合わせ（分割、同類）、物のマッチング等</p>						
数と計算	<p>【ある、ない？】 * ものかくし、チェーン抜き、具体物配り等</p> <p>【数えてみよう】 * 数唱、数字のうた、具体物の取り出し等</p>	<p>【10 までの数】 * どんぐり拾い、果物野菜収穫遊び、魚釣り、数カードの分類等</p> <p>【くらべてみよう】 * 同じ、多い・少ない、買い物遊び等</p> <p>【なんばんめ】 * 並んでみよう、何番目、数字カード並べ等</p> <p>【合わせてみよう・分けてみよう】 * 合成・分解パズル等</p>	<p>【20 までの数】 * 数字つなぎ、助数詞の表現</p> <p>【100 までの数】 * 数字つなぎ、100 段そろばん等</p> <p>【数えてみよう、分けてみよう】 * プリント配り、具体物の操作等</p> <p>【たし算・ひき算】 * 計算（リングやミカンなどの具体物を使って）、具体物の操作を式に表す等</p>	<p>【1000 までの数】 * 数直線、お金の換算等</p> <p>【計算しよう】 * お金の計算・換算、百の位への繰り上がり・繰り下がりが無い加法・減法、電卓計算等</p> <p>【かけ算】 * かけ算九九と活用等</p>	<p>【整数の表し方】 * 数の変換、数の比較等</p> <p>【計算しよう】 * お金の計算、電卓の計算等</p> <p>【かけ算の活用】 * 乗法の計算、的あてゲーム等</p> <p>【割り算】 * 具体物の操作、除法の計算等</p> <p>【小数・分数】 * 具体例（靴のサイズ、体重）、折り紙、計量等</p>	<p>【整数の表し方】 * 重さの換算等</p> <p>【整数・小数の表し方】 * 数の換算、計算の工夫等</p> <p>【概数】 * 人口の概算、買い物の概算等</p> <p>【計算しよう】 * ができる。計算を活用する。 * 計算の工夫等</p> <p>【整数の乗法】 * 計算の工夫等</p> <p>【整数の除法】 * 計算の工夫、基準量・比較量等</p> <p>【小数の計算】 * 小数の計算、計算の工夫等</p> <p>【小数の乗法と除法】 * 小数の乗法・除法の計算等</p> <p>【分数とその計算】 * ケーキの分配・加法・減法等</p> <p>【数量の関係を表す式】 * 記号を使った式、表作り等</p> <p>【計算に関して成り立つ性質】 * 交換法則、分配法則、結合法則等</p>	<p>【整数の性質】 * 偶数・奇数、公約数・公倍数等</p> <p>【分数】 * 分数と整数・小数の表現、約分・通分等</p> <p>【分数の加法、減法】 * 分数の加法・減法等</p> <p>【分数の乗法、除法】 * 分数の乗法・除法等</p> <p>【数量の関係を表す式】 * a、x を使った式等</p>
図形	<p>【いろいろな形を探してみよう】 * \triangle、\square の型はめ、マッチング等</p> <p>【あわせてみよう】 * マッチング、線結び等。</p> <p>【なかまあつめ】 * 具体物の分類等。</p> <p>* 図形領域として 2 段階の分類につなげていく意図をもって指導する。 * ものに直接触れたり、いろいろな方向から見たりするなど、触覚をはじめとする様々な感覚についての経験を重ねる。</p>	<p>【いろいろな形に分けてみよう】 * 色・形・具体物の分類等</p> <p>【まる、さんかく、しかく】 * \circ、\triangle、\square の分類等</p> <p>【描いてみよう】 * 型なぞり、なぞり書き等</p>	<p>【いろいろな形を知ろう】 * 身近な形探し等</p> <p>【形を作ってみよう】 * 積み木でつくろう、色板構成・分解等</p> <p>【どこにある？】 * 何番目、物の位置の表現（「\circの上」「自分から見て\circ」）等</p> <p>【どっちが速い？】 * ミニカーレース、傾斜比べ等</p>	<p>【直線・頂点・角】 * 線結び、折紙等</p> <p>【いろいろな図形】 * 図形の分類、色板比べ等</p> <p>【図形をかいてみよう】 * 点結び（作図）、ひこ・色板構成、箱作り等</p>	<p>【図形をかこう】 * 作図、円による模様作り等</p> <p>【面積】 * 単位図形の操作（敷き詰める、何個分）等</p> <p>【角の大きさ】 * 角の測定（三角定規、分度器）等</p>	<p>【平面図形】 * 四角形の弁別、作図、円周率と直径、円周の長さ等</p> <p>【平面図形の面積】 * 平面図形の面積とその公式等</p> <p>【立体図形】 * 立体調べ、箱の組み立て等</p> <p>【ものの位置】 * 下駄箱の位置等</p>	<p>【縮図や拡大図】 * 縮図・拡大図、線対称・点対称等</p> <p>【概形やおよその面積】 * 概形、おおよその面積等</p> <p>【体積】 * 体積の求め方等</p> <p>【円の面積】 * 円の面積等</p>
測定 （仮 1、2、3、4 段階）	<p>【同じのはどれ？】 * 具体物の分類等</p>	<p>【長さ、重さ、高さ、広さ】 * 荷物運びゲーム、大小、長短の分類等</p>	<p>【比べてみよう】 * 鉛筆の長さ比べ、何個分等</p>	<p>【測ってみよう】 * 測定、軽量、重さ比べ等</p>	<p>【変化の様子を表そう】 * 同等の個数と重さ調べ等</p>	<p>【変化の様子を表そう】 * 表作り（比例の関係）等</p>	<p>【変化と数量の関係を表そう】 * 比例と反比例</p>
変化と関係 （仮 5、6、7 段階）	<p>【分けてみよう】 * パネルシアター、給食配膳等。</p>	<p>【くらべてみよう】 * 長さ・重さ・高さ・広さ比べ等</p>	<p>【時刻や時間】 * 時計の読み、時程・日程の確認等</p>	<p>【時刻と時間】 * 時間の計算、何分前・何分後</p>	<p>【簡単な割合】 * 買い物（値上げの割合比較）等</p>	<p>【速さと時間】 * 速さと時間の関係、人口密度等</p> <p>【割合】 * 割り引き計算、打率、勝率等</p>	<p>【比】 * 比、ジュースの濃さ等</p>
データの活用		<p>【分けてみよう】 * 仲間集め、チャンギング等</p> <p>【数をくらべてみよう】 * 給食の配膳、プリント配布等</p> <p>【簡単な表をつくってみよう】 * 的あてゲーム等</p>	<p>【絵や図、記号で表そう】 * 天気調べ、ボーリングゲーム等</p>	<p>【表やグラフで表そう】 * 簡単なアンケート、ゲーム等</p>	<p>【表やグラフで表そう】 * 雨量・気温調べ等</p>	<p>【円グラフ、帯グラフで表そう】 * 風邪をひいている人の割合等</p> <p>【平均してみよう】 * 平均気温、平均タイム等</p>	<p>【データの収集と分析】 * 代表値、データの分析等</p> <p>【場合の数】 * 並び順、コインの裏表等</p>
数学的活動	<p>見たり、触れたりするなど視覚や触覚等で判断する経験をもつこと。具体的、実際の、行動的に対象に働きかける活動。一対一対応での分配等。</p>	<p>視覚や触覚等で判断する経験をもつことや表現すること。具体的、実際の、行動的に対象に働きかける活動の経験を基に数量や図形に働きかける活動。ものの個数を比べて多少を知るよさを味わったり、考えた結果が正しいことを確かめたりする活動。問題点と解決策について具体物を使って再現し振り返る活動。</p>	<p>自分から数量や図形に直接働きかける活動。問題状況を整理したり、明らかにしたりして解決の手掛かりを発見し、解決に役立て、解決方法が正しかったことや修正の必要性について考える活動。絵図、式などで表すなどして考えたことや解決の仕方について振り返り、そのよさを認め合う活動。</p>	<p>小学部 3 段階の内容に準ずる活動。</p> 	<p>身に付けた数学的な見方・考え方を働かせて対象の特徴や性質を捉えたり、対象に直接働きかけたりすることによって新たに気付いたことや分かっていたことを注意深く考察しようとするなど、目的意識を持った主体的な活動。他、中学部 1 段階と同じ。</p>	<p>日常生活での問題を数理的に捉え、既習事項を活用しながら解決し、日常生活に生かす活動。数学の問題に主体的に関わり、問題を見いだし、既習事項を基に考え判断し、その結果を表現したり処理したりして発展的に考察する活動。問題解決の過程や結果を図や式を用いて数学的に分かりやすく表現し伝え合う活動。</p>	<p>日常の事象を数理的に捉え、問題を見いだし、既習事項を基に解決し、振り返りを通して結果や方法を改善したり、日常生活に生かしたりする活動。数学の問題に主体的に関わり問題を見いだして解決し、解決過程を振り返り統合的・発展的に考察する活動。問題解決の過程や結果を図や式を用いて数学的に表現し伝え合う活動。</p>

《職業・家庭》 段階ごとの単元配列

項目・内容	小学部 1段階 (仮 1段階)	小学部 2段階 (仮 2段階)	小学部 3段階 (仮 3段階)	中学部 1段階 (仮 4段階)	中学部 2段階 (仮 5段階)	高等部 1段階 (仮 6段階)	高等部 2段階 (仮 7段階)
職業科 A「職業生活」 (勤労の意義)	【日直になって、今日の天気を発表しよう】 ◆学級集団の中で日直を行うことで、集団の中での役割に関心をもつ。 ○朝の会の中で日直として、その日に天気を発表する。	【係の仕事に挑戦しよう】 ◆簡単な係活動について、その役割が分かり、行うことができる。 ○学級集団の中で、簡単な係活動に取り組む。	【お楽しみ会をしよう】 ◆学年や異年齢等で構成される集団の中で、それぞれが簡単な役割をもち、果たそうとすることができる。 ○お楽しみ会の中で、それぞれが役割をもって活動に参加する。	・働くことに興味を持つ ◆身近な人の働く姿を見て、働くことについての興味を持つ。 ○地域にある職場見学や卒業生の話を聞き、働いている人の様子や仕事の内容、職場での生活について調べる。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・働く良さを知ろう ◆社会の一員として役割を果たすことの大切さを知る。 ○地域での販売会や地域貢献をする。 Aア(ア)(イ)(ウ)Cア ㊦地域の清掃をしよう	・勤労のよさを知ろう ◆自分の能力や適性を知り、仕事に励む大切さを知る。 ◆色々な進路先を知る。自分のこととして考える機会とする。 ○卒業生の進路先や先輩の実習先を中心に多様な進路先を紹介する。 Aア(ア)	・勤労の喜びを知ろう ◆自分たちが取り組んでいる生産や生育活動等が社会貢献につながる事がわかり、働くことの意義を知る。 ○地域で製品や作物を販売したり、作業活動を通して地域貢献したりして社会的な有用性を体験的に理解する。 Aア(ア)
(仕事の内容)				・働くとはどんなこと? ◆自分の将来を考える。職業とは何かを知る。 ◆はたらくことの大切さを知る。仕事の種類や仕事をするために必要な力に気づく。 ○職業の名称や仕事の内容、生産品や製品の名称、商店や会社の役割を知る。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・自分の将来を考えよう! ◆キャリアマップを作成し、作文「自分の将来」を書いて発表する。 ◆自分の将来を考える。働くこととは何かを知る。 ○自立や将来について ○キャリアマップの作成と発表(ワークシート等) Aア(ア)イ	・地域の職場を知ろう ◆地域にある農・林・水産業、工業、商業などに関わる多様な職場を知る。 ◆人々が働くことを尊重していることを理解する。 ○。 Aア(ア)イ(ア)㊦	・貢献する喜びを知ろう。 ◆生産や生育活動への意欲を高める。 ◆より良い製品や背負物、活動が求められることに気づき、工夫・改善や、自らの知識や技能を向上させようとする。 ○地域で販売会をする。 Aア(ウ)、Aイ(ア)㊦
(労働条件)						・労働条件を知ろう ◆勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの労働条件を知る。 ◆健康保険や雇用保険、年金などの制度を知る。 ◆資格について知る。 ○書類の見方や各制度の内容を知る。 Aイ(ア)㊦	・職業生活に必要な知識 ◆職場の組織、労働時間と報酬、職場での各種保険制度、免許や資格等、検定についての知識を深める。 ○職場の役割、労働時間と勤務時間、賃金、福利厚生、資格と給与の関係、健康保険、雇用保険、年金、資格と検定 ○給料や年金の管理、健康保険の取り扱い方。 Aイ(ア)㊦
(スキル)						・働くために必要なこと ◆高校生と社会人の言動の違いに気付く。社会人として相應しい行動を知る。 ○健康管理、みだしなみ、ビジネスマナー、電話対応、金銭管理、SSTなど。 Aイ(イ)㊦㊧ ㊦ビジネスマナー講習会	・仕事での礼儀作法について ◆仕事に向かう姿勢、気持ちの準備を知る。 ◆必要な礼儀、挨拶、言葉遣いを覚える。 ◆体験実習を振り返り、後期の現場実習につなげる。 ◆礼状の様式を知る。 ○体験実習事前学習 ○体験実習 ○体験実習事後学習 ○体験実習について知る。
(福祉サービス・相談機関)				・相談しよう ◆困ったり、悩んだりしたときは、周囲に相談できることを知る。 ○困ったり悩んだりする場面を知る。 ○各市町村の福祉課を知る Aイ(ア)㊦	・福祉サービスを知ろう ◆福祉サービス等の内容や利用方法を知ろう。 ○グループホームや移動支援、ヘルパーなどの支援を知る Aイ(ア)㊦	・社会の仕組みを知ろう ◆雇用に関する各種援助や障害者福祉サービスを知る。 ◆生活の場や生活費、生活に対する介助、日中活動の支援等の利用方法について知る ○就職に向けた相談や準備・訓練、就職活動や雇用全支援、雇用定借支援、離職転職について知る。 ○グループホーム等の利用方法や登録方法を知る。 Aイ(ア)㊦	・福祉サービス等の利用方法を知ろう ◆雇用に関する各種援助や障害者福祉サービスの利用方法を知る。 ◆各種支援制度や相談先の見学や登録をして、実際の具体的に確認する。 ○サポートネットワーク ○就労支援センター登録会 ○福祉課訪問 Aイ(ア)㊦
(協力)	・共同作業と役割分担 ◆簡単な作業を共同で行ったり、作業に置いて分担された個人の役割を果たしたりする。 ※楽しい雰囲気の中で共同作業ができるようにする。 力役割 (ア)(イ)	・共同での作業と役割分担 ◆友達と一緒に互いに協力して楽しく作業に取り組む。 ○様々な集団の中で簡単な役割を果たしたり、友達と協力して活動や作業に取り組んだりする。 ○周囲から感謝される経験を通して、役割を果たすよさや意欲等を高める。 力役割 (ア)(イ)	・共同作業と役割分担 ◆作業分担や役割が分かり、自分から取り組んだり、役割を果たしたりする。 ○個々の児童の力が発揮できるよう、繰り返し活動に取り組める作業の機会を用意する。 力役割 (ア)(イ)	・協力して仕事をしよう(生産・生育) ◆作業全体の中で与えられた自分の仕事を最後まで成し遂げる。 ◆記録を取ることで自己の変容や成長に気づく。 ○作業工程表を用いて活動内容や終了確認をする。 ○学習記録を書く。 Aア(イ)(ウ)、Aイ(ア)㊦ ㊦園芸 作物の栽培	・協力して仕事をしよう(製作・生産・生育) ◆作業全体の中で自分の仕事の分担がわかる。 ◆他者と協働して活動する。 ○お互いの動きをみながら声を掛け合って仕事に取り組んだり、合図を送りながら協力したりして作業を行う。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦園芸 作物の栽培	・協力して効率よく仕事をしよう(材料、生物の育成、生産や生育活動) ◆他者と意見交換をし、他者の意見を踏まえて自分の考えを広げたり深めたりする。 ◆必要に応じて報告や質問をすることができる。 ○。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦	・協力して効率よく仕事をしよう(材料、生物の育成、生産や生育活動) ◆他者に対しての望ましい関わり方や態度についてわかる。 ◆それぞれの役割や仕事の分担を考えよう。 ○。 Aア(イ)、Aイ(ア)㊦ ㊦
(道具)	・集団参加や集団内での役割 ◆児童が人数や年齢幅が異なる集団に参加し、友達を知り一緒に活動する経験を通して、手段の中で活動することに慣れる。 力役割 (ア)(イ)	・集団の参加や集団内での役割 ◆集団活動で簡単な係活動を果たす。 力役割 (ア)(イ)	・集団参加や集団内での役割 ◆児童が積極的に様々な集団活動に参加し、活動の準備や役割を主体的に果たしていく。 ◆集団活動では、役割があることを知り、他の係を意識して活動の見通しをもって、自分にお役割を果たす。 力役割 (ア)(イ)	・道具を使ってみよう ◆用具の正しい使い方を知る。 ◆作業課題がわかり、使用する道具等の扱いに慣れる。 ◆作業の持続性や巧緻性を身に付ける。 ○道具・機械の使用法、手洗い・身支度、計量、片づけ、点検などの実践 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦机をつくろう	・道具を使ってみよう ◆用具・工具・農具、工作機械を安全に使用する。 ◆作業課題がわかり、使用する道具等の扱いを理解する。 ◆作業の持続性や巧緻性を身に付ける。 ◆素材や生育する生物等の保管や管理をする。 ○道具・機械の使用法、手洗い・身支度、計量、片づけ、整理整頓、点検などの実践 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦パンをつくろう	・道具を正しく使おう ◆作業に応じて道具や機械を使用する。(運搬、重さや長さの測定、加工、品物の梱包等) ◆道具の手入れや簡単な修理、管理ができる。 ◆作業の準備、作業活動、作業の片づけを積み重ね、安定して取り組む。 ◆状況に応じて作業をする。 ○道具を使用した作業。 ○温度や湿度に応じて身支度を整える。 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦㊧ ㊦ ㊦木工製品をつくろう 調理をしよう 清掃をしよう	・作業に応じて道具を使ってみよう ◆工具・農具、運搬用の機器、製造機器の扱い方がわかり、効率よく、確実に使用する。 ◆道具や機械を安全に使用する。 ◆衛生面に気をつける。 ○決められた場所に運搬する。個数を数えたり並べたり束ねたりして整理できる。 Aイ(ア)㊦、Aイ(ア)㊦ ㊦清掃をしよう
(健康管理・余暇)	・日課を知ろう ◆日課(学校生活で行われる授業等)を教師と同じような行動を教師からの言葉掛け聞いたり、手を取ってもらいながら、一緒に行動する。 ◆簡単な日課に気付き行動しようとする。 ウ日課・予定 (ア)(イ)	・日課を知ろう ◆身近な日課や予定が分かり、次第に見通しをもって行動できるようにする。 ○教師の言葉掛けや絵や写真で示したカード等を見たりして、次に何をやるのかが分かり、できるだけ一人で日課に沿って行動する。 ○下校後の予定や明日の予定などを取り扱うことで、児童が見通しをもって過ごす。日課・予定 (ア)(イ)	・予定を知ろう ◆1週間程度の予定が分かる。 ◆学校の予定や家庭の予定などに従って行動できること。 ◆都合によって予定の変更ができる。 ウ日課・予定 (ア)(イ)	・自分の楽しみをもとう! ◆自由になる時間(余暇)の過ごし方がわかる。 ◆くふうして余暇を過ごす計画を立てることができる。 ○一日の生活の流れとリズムと健康の関係について ○休日の余暇や楽しみについて Aア(ア)(イ)、イ(イ)㊦	・健康管理をしよう ◆仕事に安定的にとりくむことができるように健康管理の方法を知る。 ○体温の計測の仕方や、睡眠時間について知る。 Aイ	・健康管理や余暇の過ごし方について考えよう ◆職場で働くことを中心とした生活に求められる健康管理の方法を知る。 ○睡眠時間、休憩時間の利用食事時間の取り方、健康管理の方法、歯科検診や健康診断、休日の過ごし方等 Aイ(イ)㊦	・実習を経験して、健康管理や余暇の過ごし方について考えよう ◆職場の習慣をふまえ、公立の良い休憩時間の使い方を考える。 ○休憩時間、休日の過ごし方、福祉サービス、生涯学習、職場のレクリエーション、福利厚生施設等 Aイ(イ)㊦、イ(ア)㊦、家庭科、保健体育科とも連携

<p>職業科 B「情報機器の活用」 (デジタル機器・インターネットの使い方)</p> <p>(デジタル機器を使った表現)</p> <p>(ルールやマナー)</p> <p>(仕事におけるデジタル機器の活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取りつきをしよう ◆人の来訪や電話がかかってきたことに気づき、関心を持つ。 オ。人とのかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取次ぎをしよう ◆人の来訪を伝えたり、電話の取次ぎをしたりすることが大切であり、初歩的な伝言の経験を積み重ねる。 オ。人とのかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来客の取りつきをしよう ◆電話や来客時には、「はい。〇〇です」「今変わります」「〇〇先生にお電話です」などと言って、適切に取り次ぎをする。 ○校内に設置している電話を活用し、児童が率先して取り次ぐことができる。 オ。人とのかかわり (ア) (イ) 	<ul style="list-style-type: none"> 身近なデジタル機器を使おう ◆情報機器の使い方がわかる。 ○タブレット、固定電話、携帯電話、等の使い方を。知る。 Bア 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを使おう ◆インターネットを使って情報収集する。 ○コンピュータの基本操作の仕方を知る。 Bア 	<ul style="list-style-type: none"> 電話やファクシミリを使おう ◆電話やファクシミリの基本的な操作方法がわかり、しごとに関する要件を正確に伝えたり、受けたりする。 ○電話の受け答えの仕方を知る。 Bイ 	<ul style="list-style-type: none"> インターネットでの買い物 ◆トラブルの危険性を知り、適切に利用しよう。 ○クレジットカードやキャッシュカード、マイナンバー等 Bア
<p>職業科 C「産業現場等における実習」 (実習)</p> <p>(実習報告準備)</p> <p>(実習報告)</p>	<p>【先生の手伝いをしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆身の周りの簡単な手伝いを教員と一緒に、簡単な手伝いや仕事に関心をもつ。 ○教員と一緒に、印刷物を配ったり、身の周りの簡単な手伝いを行う。 	<p>【教室をきれいに掃除しよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆教室を掃除用具を使って掃除しようとする。 ○教員に支援を求めながら、掃除用具を使い教室の掃除を行う。 	<p>【特別教室の掃除をしよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆みんなが使用する特別教室を掃除用具を使い、手順を考えながら、進んで掃除することができる。 ○掃除道具を使い、手順を考えながら、掃除を行う。 	<p>・実習の事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の仕事内容を知る。 ○実習の期間や日にちを知る。 C <p>職場見学に行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「産業現場等における実習」に向けて、「職場見学」や「校内実習」、「就業体験」などの実際の学習活動を相互に関連付けながら実施することで、生徒が職業や進路に関わる事柄について関心をもち、それらについて考えたり、伝えたりする。 ○商店や企業、農業、市役所などの公的機関、作業所などの福祉施設などで、一定期間、働く活動に取り組み、職業生活の実験を経験する。 C <p>実習の事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆身近な職業に関わる学習活動を通して、分かったこと、気付いたこと、感じたことなどを身近な他者に伝えたりする。 ○職場見学や就業体験等を通して、身近な製品がどのように作られるのか、身近な商店等でのようなやりとりがあるのかなど、仕事のことを調べたり、働いている人々の話を聞いたりして、分かったことや気付いたことを話し合ったり、資料にまとめたりする。 ○お手伝いとは異なる働く活動の大切さに気付く。 ○他者の意見や行動を見て気付いたり、考えを上げたりする対話的な学びを展開しながら、生活を具体的に工夫する ○進路選択に向けて、希望する進路や職業等について考えたり、判断したことを伝えたりする。 Cイ 	<p>・実習の事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の仕事内容を知る。 ○実習の期間や日にちを知る。 C <p>職場見学に行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆職場見学や校内実習に加え、就業体験、産業現場等における実習など、生徒が事業所等で、職業や仕事の実践について体験したり、働く人々と接したりする活動を通して、職業や進路などについて理解したり、考えたりする。 ◆準備をして現場実習に行き、はたらくことの大切さや楽しさがわかる。 ○実習についての学習と実践、発表(実習日誌、ワークシート等) Cア <p>実習の事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆実習を振り返り、仕事内容や考えたことを思い出す。 ○写真や実習日誌を振り返り、発表原稿を作成する。 ○実習で学んだことを発表しよう。(実習日誌、ワークシート等) Cイ 	<p>・実習の事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の目標を設定 ○実習先への交通手段、持ち物、服装等について確認する Cイ <p>・現場実習に行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産業現場等における実習を通して、就業や卒業後の職業生活を健やかに過ごすために求められる知識や技能及び態度が分かり、身に付ける ○生産品や製品又は商品の名称とその取扱い、それらの社会的な有用性、企業の組織体制及び配属された職場における職制、分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度、自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持、休憩時間等の余暇の過ごし方などについて知る。 ○通勤の方法や通勤にふさわしい服装について理解すること、通勤中に起きたトラブルに対処する。 ○礼状を書く。 Cアイ <p>・実習の事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産業現場等における実習での一連の学習を通して、自己の課題を明らかにし、解決策を考え、実践を評価し、表現するなどの過程を繰り返し積み重ね、課題を具体的に解決する。 ○実習の評価、感想などを基に成果や課題を確認し、報告会で発表したり、実習先へお礼状を発送したりしよう。 ○カメラや文書作成ソフトを使用して、校内外の実習の機関や、目標、仕事内容、実習後の評価や感想についての資料を作成する。 ○実習報告会 ○卒業後の生活を支える機関や制度など福祉サービス利用について知る。 Bイ、Cイ 	<p>・実習の事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の目標を設定 ○実習先への交通手段、持ち物、服装等について確認する Cイ <p>・現場実習に行こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆産業現場等における実習を通して、就業や卒業後の職業生活を健やかに過ごすために求められる知識や技能及び態度が分かり、身に付ける ○生産品や製品又は商品の名称とその取扱い、それらの社会的な有用性、企業の組織体制及び配属された職場における職制、分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度、自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持、休憩時間等の余暇の過ごし方などについて知る。 ○通勤の方法や通勤にふさわしい服装について理解すること、通勤中に起きたトラブルに対処する。 ○礼状を書く。 Cアイ <p>・実習の事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆実習先から指摘されたことや、本人が課題であると感じたことなどに対して、どのように対処すればよいのかについて考え、自ら改善に取り組み表現する。 ○新規の仕事内容や状況の変化へ対応するに当たり、どのような作業指示書があれば理解しやすいのか、どのような用具や補助具、マニュアル等の支援や援助があれば正確な作業ができるのかを比較・検討したり、これまでの学習経験から見立てたりして申し出る。 OCイ

	個別最適な学び	協働的な学び
教材	<p>個々の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団学習の中での実態に合わせた個々のプリント学習の準備（書ける子供、シール貼りをする子供など） ・ 選択肢を提示する。（考えることを促す。） ・ 「発表の型」の準備する。 ・ 友達に伝える際、絵カードや写真カードを準備する。 ・ 活動の目標をなるべく具体的に（例「大きな声」）提示する。 ・ 黒字に白抜きのみぞり書き教材 ・ ある程度重さのある教材を操作して実感できるようにする。 ・ タブレットで、言葉のイメージと一致する画像などを検索する。 ・ ヒントカードを参照しながら一人で課題が進めるようになる。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題のバリエーションを増やす。 ・ 引き上げ課題と自立課題のバランスをとる。 ・ 認知に合わせた教材を作成する。 ・ 正しくできているか自ら判断できる教材を用いる。 ・ プリントとアプリの両方をうまく活用する。 ・ 実態に応じた ICT 教材を活用する。（写真や動画など） ・ 活動の様子や記録をタブレットで記録する。（今日や前回の振り返りが分かりやすくなる。） ・ 文字の記入が難しい場合、タブレットを使った振り返りを行う。 	<p>一緒に</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで短いコラムやセリフを読む。 ・ ペアやグループで一つの課題を仕上げる。 ・ グループで口形模倣をする。 ・ モニターで問題や回答を共有する。 ・ 絵本などの題材から、セリフや物のやり取りを再現する。 ・ カフトを使ったクイズ形式の問題を行う。 ・ タブレットで問題に答え（ルーレット形式）動作化しながら発表する。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別学習で使っている教材を集団の中で使用する。 ・ タブレットで自分で調べる→伝える ・ 具体物を渡ししながら伝える。（バトンリレー形式）

- ・適切な言葉掛けを行う。
- ・筆記用具の持ち方の指導をする。
- ・教材提をの工夫する。(提示数や提示場所)
- ・教材や活動の順番を工夫する。
- ・課題を部分的に選択して取り組む。
- ・好きな活動を選択する。(具体物、絵・写真)
- ・手がかりを段階的に提示する。
(例 文字→イラスト→言葉)
- ・がんばる所を確認する。
- ・役割の意識をもたせるために、視覚的な役割表を作成する。また、個々の理解を促すための身に着ける物を準備する。
- ・問題、答え、正解を視覚的に提示することで、正誤を分かりやすくする。
- ・苦手な課題、得意な課題のバランスや順番、量を考えて全体の活動を構成する。

評価

- ・教師とハイタッチで、できたことを共有する。
- ・即時評価を行う。
(しっかりとできたことを確認し自信をつける)
- ・すぐに評価し、修正する。
- ・友達の答えを一緒に確認する。
- ・教師が「合ってますか？」など仲介しながら子供達同士で評価ができるようにする。
- ・活動の動画をみんなで見てよかったところを評価する。

発表

- ・発表の設定 (話す人、聞く人)
- ・取り組みの成果を発表する。
- ・「話し合う」「人の意見を聞く」「自分自身を振り返る」ことを提示する。
- ・発問を具体的にして意見を引き出す。
- ・子供の成果物を大画面で共有することで、みんなで見合いながら、発表したり感想を言い合う。
- ・発表の方法を具体的な項目にする。
(発表する人、聞いて評価する人が分かりやすい。)
- ・他者の発表を聞いて「いいね」カードを貼って評価する。

相互交渉

- ・やり取りの機会 ・教師が来るまで待つ
- ・「できました」「教えてください」「わかりません」
- ・子供が決める活動を増やす。
- ・子供同士のやり取りを教師が仲介する。
- ・伝える時のセリフを統一するなどして、パターンで覚えた後に、発展させていく。
- ・分からないときに、友達に聞くように設定する。

役割

- ・役割の設定 ・役割の交代
- ・早く終わったら他の友達に教えるなどの役割
- ・できる児童生徒が手本になるようにする。
- ・絵本などストーリーのあるものを題材にして役割を設定する。
- ・分かっている子供が、教えてあげるようにする。
- ・役割を子供達で話し合って決める。
- ・流れ作業の設定

その他

- ・全員で読む、数唱する。
- ・順番を待つ (順番を提示して)、友達を見る。
- ・待っている子供への質問 (友達に注目する工夫)

物

- ・集中できる座席や物の配置にする。
(パーテーション、机の配置を工夫する。)
- ・座面にクッションを置いたり、椅子の脚にゴムを付ける。
- ・答えが見えないような座席配置など
(他者の答えを見てしまう場合)

時間

- ・終わりを意識して取り組む。
- ・やりとり学習を重点的に行う子供を設定するなど
の工夫を行う。(時間や曜日の工夫)

物

- ・教師のところまで自分で報告に行くようにする。
- ・輪になるペアになるなど座席配置の工夫する。
- ・発表や教師の手本を見られるよう座席を配置する。
- ・教師、子供2人以上で机をつけて話し合いながら学習を進める場面の設定を行う。
(子供同士が聞いたり教えたりするために、教師が仲介する。)
- ・机を輪にして話し合うことで相手の様子が見やすいようにする。

※本校の授業研究と協議を基に作成した(令和6年度 都立王子特別支援学校 研究研修部・研究推進部門)

《Ⅱ 実践報告資料》

1. 「国語数学（個別学習）・小学部」（小2、小3、小5、重小6）

小学部2年 個別学習	授業者名	明石 結香
国語・算数		
学習指導要領の位置付け	国語 読む	小学部1段階【お話を読もう】
	算数 数量の基礎	小学部1段階【動かしてみよう】

① 対象児童の実態

太田ステージⅢー1

- ・単語での発語がある。排せつ、欲しい物があるときの要求は教員に伝えることができる。

② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・操作する具体物をよく見て動かす。（環境の把握）
- ・場面に適した言葉を使って、要求を伝える。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・課題を終えたら次の課題に取り組むのではなく、教師に報告するように促すことで、課題の間違いをすぐに訂正できるようにした。
- ・合っている時はタッチをして、課題の終わりや達成感を味わえるようにした。

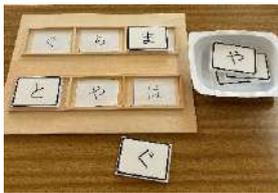
④ 授業の様子

「文字のマッチング」

主なねらい：文字の形をとらえ、正しくマッチングする。
活動の流れ：選択肢の中から文字を選び取り、見本の文字の上に置く。

ラミネートカード
を見本を重ねると課題の終わりが分かりづらい。

➡



工夫したこと、改善したこと

- ・パネルがはまる枠に変え、「できた」ことが感じられるようにした。

「ドットカードの弁別」

主なねらい：ドットの個数を見て、正しく弁別する。
活動の流れ：複数枚のドットカードを手本を見ながら振り分ける。

見本のドットカードの上に置くと、間違いに気付かなかった。

➡



工夫したこと、改善したこと

- ・トレーに見本のカードを貼り付け、正しい物が分かるようにした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・教材の形状や見本の位置を工夫したことで、文字や数を認識しやすくなった。（環境の把握）
- ・課題ができたことを教師に褒められることで、達成感を感じる様子が見られた。（人間関係の形成）→協働的な学びにもつながる。

小学部3年 個別学習	授業者名 丹治 誠友
国語・算数	
学習指導要領の位置付け	国語 書くこと 小学部2段階【運筆に親しもう】 算数 数と計算 小学部1段階【数えてみよう】

① 対象児の実態

- ・太田ステージⅡ
- ・発語はあるが独り言が多い。多動傾向が強く情緒が不安定であり、学習に取り組むことが難しい時がある。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

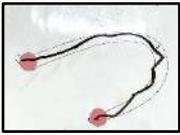
- ・多動傾向が強く、些細なことで癇癢を起こす。（心理的な安定）
- ・時々発語しつつ、クレーン等で表現することが多い。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・段階的に言葉掛けや直接的な支援を減らしていき、自分で教材を出し入れするなど、受動的な取り組みから主体的な取り組みに移行できるようにしている。
- ・始めは少ない数からスタートし、徐々に数を増やしたものを提示するようにした。

④ 授業の様子

「なぞってみよう、かいてみよう」
 主なねらい：鉛筆やペンを正しく持ち、なぞり書きができる。
 活動の流れ：①平仮名をなぞり書きする。
 ②名前をなぞり書きする。



白抜き・縦書きの名前を、鉛筆でなぞり書きする。

工夫したこと、改善したこと
 ・平仮名の形を意識できるよう、始点と終点を強調したり、白抜きにしたりした。

「すうじをかぞえてみよう」
 主なねらい：5までの数で、指定された数を取り出すことができる。
 活動の流れ：①指定された数のブロックを取り出し、枠に並べる。



工夫したこと、改善したこと
 ・指定された数の物を入れる枠を用意することで、視覚的に数を捉えやすくした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・壁際に座席を配置したり、教材ボックスを構造化したりするなど、学習環境を整えることで、落ち着いて学習に取り組んだり、自分で教材を出し入れしたりする様子が見られた。（心理的な安定）
- ・個別指導を通して、教員の言葉や指差し、動作支援などの働き掛けを受け止め、それに応じて学習に取り組もうとする姿が多く見られた。（人間関係の形成）

小学部5年 個別学習	授業者名 矢口 友紀子
国語・算数	
学習指導要領の位置付け	国語 小学部2段階 【いろいろな言葉】 算数 小学部2段階 【合わせてみよう・分けてみよう】

① 対象児童の実態

- ・太田ステージⅢー1（前期）
- ・日常的な繰り返しの簡単な指示は分かる。単語同士のマッチングはできるが、バラバラにすると読むことは難しい。

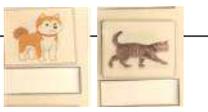
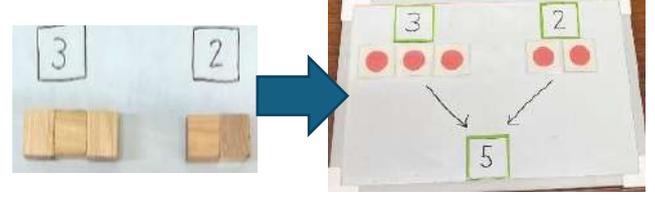
② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・最後まで落ち着いて課題に取り組むことができる。（心理的な安定）
- ・特定の教員に、絵カードを選択して伝えることができる。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・教員は椅子に座り、目線を合わせて支援を行う。
- ・コミュニケーションカードを準備することで、分からない時に伝えられるようにする。

④ 授業の様子

<p style="text-align: center;">「文字の構成」</p> <p>主なねらい：平仮名を読めるようになる。 活動の流れ：①絵を見て平仮名を構成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>犬と猫のマッチング課題では、違いがわかりづらかった。</p>  </div>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・猫と犬が間違えやすいので、明らかに異なる動物を取り扱う。平仮名の構成に取り組む。 </div>	<p style="text-align: center;">「数の合成」</p> <p>主なねらい：一桁の数の加法ができる。 活動の流れ：①二つの数字を見て、それぞれに数のタイルを置く。 ②「合わせていくつ」に答える。</p>  <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半具体物にして取り組んだ。 ・合計の数字が分かるように提示した。 </div>
---	--

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** ステップアップした課題（平仮名の構成や半具体物での数の合成）に、自分で落ち着いて取り組むことができた。（心理的な安定）
- ・**協働的** 教員からの言葉掛けを受け止め、「できました」「分かりません」のコミュニケーションカードを使って相手を意識しながら課題に取り組む姿が見られた。（人間関係の形成・コミュニケーション）



小学部6年 自立活動	授業者名 松本 芳規
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体幹を鍛え、体の軸を作る。 ・ 前庭覚の覚醒を促し、物を見る力や、情動の安定を高める。 	
学習指導要領の位置付け	身体の動き（姿勢と運動・動作の基本的技能） 環境の把握（保有する感覚の活用）

① 対象児の実態

- ・ 太田ステージⅠ－3
- ・ アンジェルマン症候群で発語はないが、簡単な指示は分かり、応答することができる。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・ 体幹を鍛え、体の軸、筋緊張を整える。
- ・ 回転する椅子の中でバランスを取って座り続けることができる。

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・ できたときに教員とアイコンタクトをして、成功体験を感じられるようにしている。
- ・ 「やりたい人はいますか？」の問い掛けに、アイコンタクトや動作などで意思表示を学習意欲を維持できるようにしている。

④ 授業の様子

「またぐ・背伸び・バランスボール」



- ・ 呼名に応じて前に出て、ミニハードルをまたごうとすることができる。→ミニハードルは段階的に高くしてまたぎやすくした。
- ・ 背伸びして、物を取る。→背伸びをして取る吸盤は色のはっきりした、見やすいものにした。
- ・ バランスボールに座り、バランスを取って弾むことができる。→教員の押すタイミングを児童が感じ取り、弾むことによって、児童のコアは刺激され、体幹を鍛え、前庭感覚を覚醒することができる。

「回転椅子」



- ・ 左右 10 回ずつ行う。
- ・ 言葉掛けに応じて椅子に深く座り、適・宜、ひじ掛けに手をかけて体を支えながら回ることができる。
- ・ 回転に対応したバランスのとり方が分かり、体を支えて規定回数回ることができる。
- ・ 呼名に応じて前に出て、回転いすに座ろうとすることができる。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・ 児童の実態に合った活動であり、自ら体を意図的に動かす機会を作れた。（個別的な学び）
- ・ 友達と交代・順番を待つなどを通して、やりたい気持ち、期待を膨らませつつやることができた。（協働的な学び）

2. 「国語（グループ）・小学部」（小3、小4、小6、重重小3）

小学部3年 いちごグループ	授業者名 田村 宙
単元名：国語「ももたろう」	
学習指導要領の位置付け	国語 小学部2段階 読む【昔話や童謡に触れよう】

① グループの実態

- ・太田ステージⅠ-3【1名】、Ⅲ-1【3名】、Ⅲ-2【2名】
- ・発声で伝える児童から、3語文を話す児童まで、実態の幅が広い。

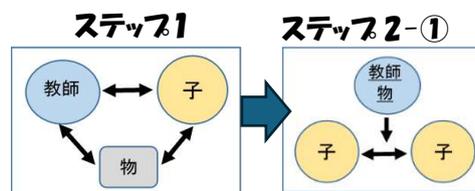
② 対象児童の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・「心理的な安定」の面では、見通しがもてない活動が苦手である。自信をもって取り組めるように、初回は、友達の手本の後に行っている。
- ・コミュニケーション面では、「伝えたい」という意欲が高まるように、口形模倣や発声を促している。



③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・教員と「どうぞ」「ありがとう」のやりとりの設定
- ・友達と一緒に鬼退治に行く活動の設定
- ・友達の活動が見やすい座席の設定



④ 授業の様子

「ももたろう」

活動の流れ：マグネットシアター

- 役割遊び
- ・猿やキジ役になり、ももたろう役の教員とやり取りする。
 - ・犬、猿、キジの3人で鬼退治する。（積み木を倒す）



マグネットシアター



鬼退治



工夫したこと、改善したこと

- ・口形模倣や発声を促した。
- ・友達と鬼退治に行く。
- ・役割遊びの中で、物の受け渡しを行った。（「ください」「どうぞ」「ありがとう」）

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 個々の実態に合わせて役割を設定した。
- ・**協働的** 役割を理解して活動することや歌やジェスチャー、鳴き声で表現することができた。また、単元全体を通して、友達と一緒に鬼退治することを楽しみにする様子や達成感を感じる様子が見られた。



小学部4年 緑グループ	授業者名 岡部 友貴
単元名：国語「いろいろな動物を知ろう」	
学習指導要領の位置付け	国語 言葉の働き（語彙） 小学部1段階【いろいろな言葉】

① グループの実態

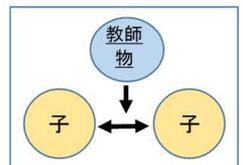
- ・太田ステージⅠ【5名】
- ・簡単な指示を理解して活動に取り組むことができる児童が多い。
- ・できたことを教員や友達から賞賛されることが比較的好きである。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・感覚刺激を求めて身体を揺らし、周りに意識が向きにくくなる場面がある。（環境の把握）
- ・「あ」「が」などの発声や、クレーンで要求を表出する。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・友達に向かって発表したり、友達を選んでやり取りしたりする場面を設定し、友達への意識を高めたり、関わり方を学んだりできるようにした。
- ・拍手で称賛する場面を設定し、気持ちを伝える方法を学べるようにした。



④ 授業の様子

<p>「まねっこ動物」</p> <p>主なねらい：動物の動作や鳴き声の表現を通して、動物の理解を広げる。</p> <p>活動の流れ：①好きな動物を選び、友達に向けて発表する。</p> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配置の工夫と、端的な合図や言葉掛けを行い、児童が互いに意識できるようにした。 	<p>「チョッキかして、どうぞ」</p> <p>主なねらい：チョッキの貸し借りを通して、友達との関わり方を知る。</p> <p>活動の流れ：①友達を一人選び、呼び掛けたり、手を引いたりする。 ②チョッキの貸し借りをする。</p> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の顔写真カードを用意し、貸したい友達を自分で選ぶことができるようにした。
--	---

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 配置の工夫や互いに称賛し合う雰囲気作りを通して、活動への意識が高まった。
- ・**協働的** 友達の発表に注目し、一緒に動作や鳴き声を表現したり、呼び掛けやチョッキの貸し借りなど、児童同士でやり取りをしたりする様子が見られるようになった。
- ・**協働的** 友達を称賛する場面で、教員の言葉掛けや見本に合わせて自分から拍手をしようとする様子が見られるようになった

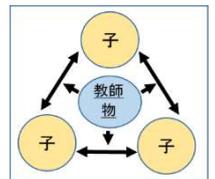
小学部6年 グループ	授業者名 塩崎 雅子
単元名：国語「助詞を使って文を作ろう」	
学習指導要領の位置付け	国語 言葉の働き（語彙） 小学部3段階【お話を読もう】【いろいろな言葉】

① グループの実態

- ・太田ステージⅢ－2（前期）【2名】、Ⅲ－2（後期）【4名】、Ⅳ【1名】
- ・対象児は2語文、3語文の発語があるが、決まった言葉や、聞いた言葉を繰り返し発することも多い。聴覚優位。視覚からの情報は混乱しやすい。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・困った時に周りに助けを求めたり、自分の気持ちを周りの人に伝えたりする。
- ・保有している力を活用し、文章を読んだり、書いたり、作成したりする。



③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・友達の発表を聞いて、反応する場面の設定
- ・分からない時は友達と一緒に考えたり、助けを求めたりできるような場面の設定

（ステップ②－2）

④ 授業の様子

「助詞」

主なねらい：適切な助詞を選択し、正しい文章を作ることができる。

- 活動の流れ：
- ① 適切な助詞のカードを選んで貼る。
 - ② 自分が選択した助詞を入れた文を読む。
 - ③ 作成した文のなぞり書きを行う。



【発展】難易度別のプリント学習に取り組む。

工夫したこと、改善したこと

- ・選択する助詞の色を変え、違いを分かりやすくとともに、身近な簡単な例文にし、助詞の選択肢を2個または3個にする。
- ・問題が分からない時に、友達に助けを求めたり友達の回答を見聞きしたりして、修正したりする。
- ・学習プリントを難易度別に3種類用意し、一番優しいレベルのプリントは、机を寄せ合っ、教員の近くで友達と一緒に考える環境を設定する。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 学習の到達度に合わせた教材を使用することで、個々の児童が適切な助詞を選択し、正しい文章を作ることができた。
- ・**協働的** 友達と一緒に問題を考えることで、問題が分からない時に、友達に聞いたり友達の答えを聞いて修正したりする様子が見られた。

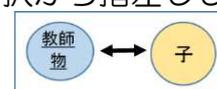
小学部3年 重度重複学級	授業者名 朝倉 文子
単元名：国語「ふれあい遊び」	
学習指導要領の位置付け	国語 小学部1段階【好きな活動を選ぼう】

① グループの実態

- ・太田ステージⅠ－1が1名、Ⅰ－2が3名、Ⅰ－3が2名
- ・重度重複学級6名。どの児童もふれあい遊びや音楽は好きで、興味をもって取り組める。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・手先の不器用さがあり、苦手意識もあり、うまくいかないと怒り出してしまふ。教材は児童にとって扱いやすい形状のものを設定した。
- ・思いが伝わった経験を積み重ねるために、児童の好きなふれあい遊びの2択から指差しして思いを伝える場面を設定した。



(ステップ1)

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・名前呼びでは、歌を活用し歌の中でくすぐりを行ってから名前を呼ぶことで、発語がない児童も声を出すようになり、どの児童も目が合うようになってきた。
- ・友達の活動後にSTが拍手やサインを促すことで友達の課題を行った時に、自分から拍手をするようになってきた。

④ 授業の様子

個別最適な学び（自立活動の視点で取り組んだ・工夫したこと）

- 好きな活動を選択する際に使用する具体物を提示することで、以前より好きな活動を指差しで伝えられるようになった。ブラシやお風呂で使うタオルなどの道具を入れることで、選択しやすくなった。



協働的な学び（協働的な学びのしかけを設定したことでやり取りの増加があったか など）

- 教員とのやり取りを行いながら課題を行う。友達の活動に注目し、拍手等、注目できるようになってきた。子どもが楽しめるくすぐり遊びを行い、くすぐり遊びを通して身振りで「もっとやりたい」と要求できるように少しずつなってきた。



⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** ふれあい遊びでは選択肢する時に具体物を提示した。
- ・**協働的** 待っている児童に対して、STが注目できるような言葉掛けを行ったことで、他の友達の活動にも注目できることがあった。

3. 「国語数学（個別学習）・中学部」（中2、中3）

中学部2年 個別学習	授業者名 仲村 紗
国語	
学習指導要領の位置付け	国語 書くこと 中学部1段階【身近な漢字を書こう】

① 対象生徒の実態

- ・太田ステージⅣ
- ・日常会話や簡単な文を読み書きすることができる。短時間集中してプリントに取り組み、少しずつその時間が長くなっている。自分で考えて課題を解決することが課題。

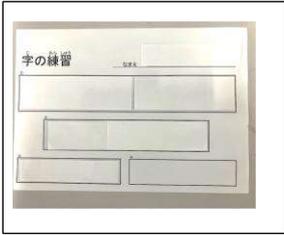
② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・集中して課題に取り組む時間を増やす。（心理的な安定）
- ・自分で課題を達成する習慣をつける。（人間関係の形成）
- ・漢字を読む力をつけることでコミュニケーションの幅を拡げる。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・課題が終わったら教員と確認し、他の生徒にも伝えて、達成できた喜びを分かち合う。

④ 授業の様子

<p style="text-align: center;">「自分の名前を書く」</p> <p>主なねらい：氏名が枠内に書ける。 自ら学習に取り組む。</p> <p>活動の流れ：一定時間内で集中して自分の氏名を丁寧に書く。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">はじめは同じ枠内に書く練習をしていた。</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; text-align: center;">  </div> </div> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な枠（大小、囲みなど）や筆記具を変えても記名できるようにした。 </div>	<p style="text-align: center;">「身近な漢字を読む」</p> <p>主なねらい：正しい読み仮名が書ける。 自ら学習に取り組む。</p> <p>活動の流れ：漢字の読み仮名を書き、音読をする。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px;">わからないところがあると、すぐに大人に頼ることがあった。</div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; text-align: center;">  </div> </div> <div style="background-color: #e0ffe0; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>工夫したこと、改善したこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードを自分でめくり、学習を進めるようにした。 </div>
--	---

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・ヒントカードを活用しながら自分で学習を進めることができた。（心理的な安定）
- ・課題ができたことを担任や友達に報告することで、達成感を感じる様子が見られた。（人間関係の形成）→協働的な学びにつながる。

中学部3年 個別学習	授業者名 佐藤 朋史
国語（個別学習）	2文字の単語の構成
学習指導要領の位置付け	国語 言葉の働き（語彙）小学部2段階【いろいろな言葉】

① 対象生徒の実態

- ・太田ステージⅣ－2
- ・学習意欲があり、意欲的にプリント学習に取り組むことができる。分からない問題があると手が止まり、取り組むのに時間がかかってしまう。誤字脱字があると気持ちが不安定になってしまうことがある。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・手本を見て課題に取り組む。（環境の把握）
- ・挨拶や返事をする。自分から報告をする。（人間関係の形成）

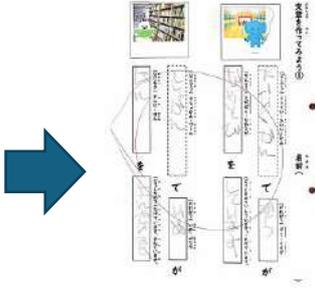
③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・分からない時には「教えてください」などと言葉で表現ができるようにしていきたい。

④ 授業の様子

「4 語文の文章構成」
 主なねらい：助詞の正しい使い方を知る。
 活動の流れ：選択肢の中から言葉を選ぶ。

解答の枠の横
 に選択肢を2つ
 表示し、選びやす
 くした。

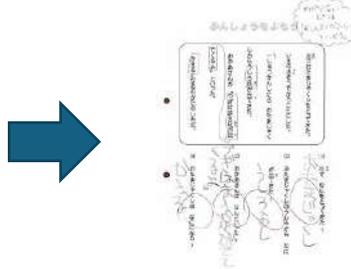


工夫したこと、改善したこと

- ・プリントの問題数を減らした。
- ・生徒が分かりやすい問題を最初に設定した。

「文章を読もう」
 主なねらい：文章を読み、設問に正しく解答
 することができる。
 活動の流れ：文章を読み、設問に解答する。

プリントに「分から
 ない時は教えてく
 ださいと言おう。」
 と表記した。



工夫したこと、改善したこと

- ・文章の読み取りが苦手なため、分からない時は教員に「教えてください」と伝えられるように表記した。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・生徒が得意な問題を最初に設定した。また、A4 プリント 1 枚の問題数を減らし、達成感を感じられるようにした。（環境の把握）
- ・苦手な問題や分からない問題がある時に「教えてください。」と伝えやすいようにした。（人間関係の形成）→協働的な学びにもつながる。

4. 「国語（グループ）・中学部」（中1、中2）

中学部1年 7グループ	授業者名 野崎 裕紀子
単元名：国語「読もう、伝えよう」 教材「ずうっと、ずっと、大すきだよ」	
学習指導要領の位置付け	国語 中学部2段階【様々な読み物を読んでみよう】 【思いや考えを伝えよう】

① グループの実態

- ・太田ステージⅣ-1【7名】、Ⅲ-2【2名】 計9名
- ・小学1年生程度の文字の読み書きができる。集団授業の中で、友達と意見交換や話し合いをする経験は乏しい。自己紹介・他己紹介や自分の意見を理由と共に発表する活動などを継続して行うことで、自分の意見をもつことができるようになりつつある。

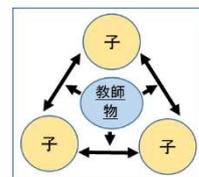
② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・一方的な関わりになりがちで生徒が多く「人間関係の形成」に課題がある。
- ・自分の気持ちや意見を表す経験が少なく、自身のなさや間違えたくないという様子が見られる。（コミュニケーション）

ステップ2-②

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・友達の意見を聞いてどう思ったかを答えやすいように選択肢を用意した。



④ 授業の様子

「ワークシート」、「自分の意見の発表」、「音読リレー」

主なねらい：自分はどうか考えるか。また、友達の意見を聞いてどう思うかを考え他者を意識する。

活動の流れ：①文章の音読 ②ワークシート記入 ③自分の意見の発表
④友達の意見を聞く ⑤友達の意見を聞いてどう思ったかを発表



ワークシート



生徒の意見

工夫したこと、改善したこと

- ・最初は友達とペアで意見交換を行い、その後3人以上のグループで意見交換を行った。
- ・ワークシートの作成では、字体はUD（ユニバーサルデザイン）フォントを使用したり読みやすいように文の改行を考え工夫したりした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** ワークシートのめあてを確認し、自分の意見を考えることに取り組めた。
- ・**協働的** 自分はどうか考えるか。また、友達の意見を聞いてどう思うかの問い掛けを行うことで、他者を意識する様子が見られた。
- ・**協働的** 自分の意見をもつことができるようになり、同じ問いに対して、自分と同じ意見や違う意見もあることを知り、他者の意見と自分の意見を比べられるようになった。

中学部2年 6グループ	授業者名 玉野 千稲
単元名：国語「言葉で伝え合おう」	
学習指導要領の位置付け	国語 小学部3段階【言葉で伝え合おう】「いつ、どこ、だれ、何をする」

① グループの実態

- ・太田ステージⅢ-1【1名】、Ⅲ-2【3名】、Ⅳ-1【1名】
- ・生徒5名（男子1名、女子4名）、自閉症3名、知的障害2名。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・集団の中で疲れてくると、自己刺激により安定を図ろうとする。（心理的な安定）
- ・疲れがあると吃音が出る。話したい気持ちはあるが、最初の一音がなかなか出ない。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ2-②

- ・友達の前で発表し、友達と一緒に確認をする。
- ・発表を他の生徒が評価をする場の設定。

④ 授業の様子

「言葉カードを選んで文をつくる」

主なねらい：言葉の性質を理解して、言葉カードを分けることができる。

言葉カードをヒントにして、文を書き発表することができる。

活動の流れ：①言葉カードを「いつ」「どこで」「だれ」の種類別に分ける。

②①を正しい順番に並べて文を作る。

③作った文を友達の前で発表し、友達から評価をしてもらう。



言葉カード



単語を並べて文を作る



評価の目安シート

工夫したこと、改善したこと

- ・発表した友達のよかったところを評価する目安として、声の大きさや話の速さをイラストで分かりやすく示したシートを活用した。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・個別最適 言葉の意味が分からない生徒にはイラストを見せて理解につなげた。
- ・協働的 評価基準を示したことで、発表している友達により注目しようとする様子が見られ、発表を見ている側から「〇〇がよかった」などと伝える場面が増えた。

5. 「国語数学（個別学習）・高等部」（高2）

高等部2年 個別学習	授業者名 久保山 憲
国語	
学習指導要領の位置付け	国語 高等部1段階【場面に応じた伝え方を知ろう】

① 対象生徒の実態

- ・太田ステージⅢ－2
- ・日常会話や文章表現では助詞のない単語のみになる場合が多い。視覚情報の獲得が優位。活動は早いけど丁寧さに欠けることがある。間違いを指摘されると混乱することがある。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・会話や文章表現は助詞のない単語のみになることが多い。（コミュニケーション）
- ・予定が変更になったり、誤りを指摘されたりすると混乱することがある。（心理的な安定）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・「いつ」「どこで」「何をした」に適切な助詞を付けて文を作り、友達の前で発表することを繰り返すことで、表現する力と話を聞く力が育つと考えた。

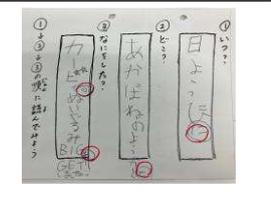
④ 授業の様子

「休日の出来事を発表しよう」

主なねらい：メモを基にして相手に伝わるような文を作り、発表することに慣れる。

活動の流れ：①出来事メモに「いつ」「どこで」「何をした」を記入する。②①に助詞を付けて文を作る。③友達の前で発表する。

作文の手掛かりとして「出来事メモ」を活用した。



工夫したこと、改善したこと

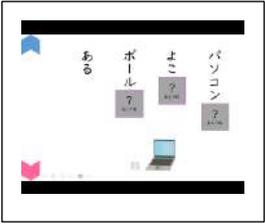
- ・休日の楽しかったことなどを思い出して書くようにし意欲をもたせた。発表時には友達の話聞いた後に質問コーナーを設けて、話をよく聞くようにした。

「言葉をつなごう」

主なねらい：助詞の使い方を知り、相手に伝わるような文を作る。

活動の流れ：①パソコン上のルーレットで助詞を選ぶ。②自分の選んだ助詞が適切か友達に聞く。③友達の様子を見て、適切な助詞の使い方に気付く。

適切な助詞を選ぶことで、相手に伝わることに気付かせる。



工夫したこと、改善したこと

- ・ルーレットで助詞を選ぶ活動の後に同じ課題をプリント学習で復習し、定着を図るようにした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・「出来事メモ」は後に「作文下書きノート」として行事後の感想文や長期休みの様子を発表するときなどに活用した。生徒たちは下書きがあると発表がしやすいと感じているようで、積極的に記入している。また、友達の話も理解しやすいため、互いに質問をし合うなどして発表内容が深まる様子が見られた。

6 「国語（グループ）・高等部」（高2、高2）

高等部2年 7グループ	授業者名 小高 麻実子
単元名：国語「検索名人になろう」	
学習指導要領の位置付け	国語 高等部2段階【いろいろな言葉】

① グループの実態

- ・太田ステージⅢ-2【2名】、Ⅳ-1【2名】、Ⅳ-2【1名】、Ⅴ【4名】
- ・計9名。単語や短文で自分の好きなことや得意なことを表現することができる。聞いた言葉を正しく理解しないまま、適切ではない言葉を返してしまうことがある。

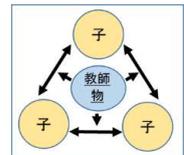
② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・周囲が気になり、集中することが難しいことがある。（心理的な安定）
- ・最後まで話を聞かずに行動してしまうことがある。（人間関係の形成）
- ・普段は友達と穏やかなやり取りを行いながら集団行動ができるが、時々相手の気持ちを汲み取ることが難しく、発した言葉で誤解を招くことがある。（コミュニケーション）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・同じ設問に対して選んだ言葉（検索ワード）を発表し合い、友達の発表を見て共感した（自分と同じ）言葉または新しく知った言葉に「いいねカード」を貼る。
- ・なぜその「検索ワード」を選んだのかを説明したり友達に尋ねたりする中で、生徒同士のやり取り場面を増やす。

ステップ2-②



④ 授業の様子

「検索名人になろう」

主なねらい：設問に適した検索ワードを発表し合う中で、言葉の意味や使い方を意識する。

活動の流れ：①設問内容を読み取り、設問に適した検索ワードをフィリップに記入する。

②①を発表し、共感した言葉や新しく知った言葉に「いいねカード」を貼る。

③検索ワードについての説明や質問をしながら言葉の意味や使い方を知る。



検索ワード記入用紙



いいねカード



4択クイズ

工夫したこと、改善したこと

- ・授業の導入で4択クイズのアプリを活用し、設問に対して短い言葉で表現した回答を選ぶ学習を行うとともに、主体的に学ぼうとする意欲を引き出した。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 「検索ワード」が見付けられない時には、ヒントカードを使って検索の仕方などの支援を行った。
- ・**協働的** 「いいねカード」は、他者が使う言葉に関心をもたせ、また自分の言葉への気付きにもつながった。

高等部2年 8グループ	授業者名 田村 和代
単元名：国語「詩の世界を味わおう、群読を楽しもう」	
学習指導要領の位置付け	国語 中学部2段階 言葉を広げよう【内容を考えて音読しよう】

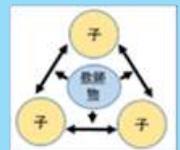
① グループの実態

- ・太田ステージⅣ-1【1名】、Ⅳ-2【5名】、Ⅴ【3名】 総合類型クラス
- ・漢字の読み書きは小3程度。タブレット端末の操作にばらつきがあるため、個別の指導が必要。国語的な学習である精読・音読には若干の抵抗感・緊張感がある。

② 対象生徒の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・「人間関係の形成」に課題がある。
- ・情緒が不安定な時や、緊張を感じる時に吃音が出ることがある。他の生徒との信頼関係を築くことが必要である。

ステップ2-②



③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・同じ詩の歌詞を読み、歌詞スライドを作成することで友達が異なる情景を描いていることを知る。
- ・音読、群読の際にボイスメモ、動画を活用して声の強弱、姿勢などをチェックする。

④ 授業の様子

谷川俊太郎「春に」 精読・群読

活動の流れ：①精読（歌詞スライド制作） ②群読 ③学年集会での発表

工夫したこと、改善したこと

- ・詩を読み、スライドを作成した後に全員で鑑賞し、評価を伝え合った。
- ・ドーナツ状で群読し、生徒同士の顔が見えるようにした。
- ・発表の場を作ることで、生徒の意欲を高めた。（学年集会での群読発表）

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 詩を読むタイミングを他の生徒と合わせられていることを評価した。
- ・**協働的** 言葉が出にくい生徒（吃音）が話し出すまで、優しく待つ姿があった。
- ・**協働的** 群読の順番を忘れていた生徒に「〇〇さんだよ。」と言葉を掛ける場面が見られた。

7. 「職業・中学部」(中1、中3)

中学部1年 職業	授業者名 長並 真美
単元名：職業 「職業」の授業について知ろう	
学習指導要領の位置付け	中学部2段階 A「職業生活」(勤労の意義) (仕事の内容)

① グループの実態

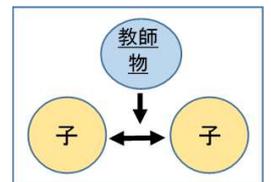
- ・太田ステージ I-2 (1名)、I-3 (1名)、II (4名)、III-1前期 (3名)、III-2前期 (7名)、IV (3名)
- ・言葉だけの説明では話している内容の理解が難しい生徒がほとんどである。言葉で話すことができる生徒でも、他者に自分のことを伝えることが苦手な生徒が多い。

② 対象児の自立活動の基礎課題 (個別最適な学びの観点)

- ・場面の設定や、教員を介すことで他者とやり取りができる。(人間関係の形成)
- ・見通しがもてないと不安定になることがある。(心理的な安定)

③ 「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)・ステップ

- ・同じパターンで毎回やり取りする場面を設定する。(返事、挨拶リレー)
- ・授業のまとめでタブレットを用い、お互いに共有できるようにする。



ステップ2-①

④ 授業の様子

「職業」の授業について知ろう

主なねらい：「働くこと」について知り、関心をもつ。

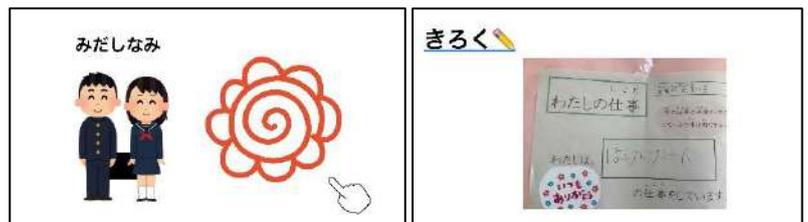
自分や友達がしている「仕事」や「役割」を知る。

活動 ①：出席確認 (一人ずつの返事)、挨拶リレー

活動 ②：今日の課題と振り返り



あいさつリレー



振り返りワークシート

工夫したこと、改善したこと

- ・モニターにランダムに顔を映していき、誰が呼ばれているのか分かりやすくした。
- ・一人一台タブレットを用いて課題を保存し、振り返りをすることで授業のまとめを意識しやすくした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 文字で書く、選ぶ、シールを貼るなど、実態に応じた課題の準備。
- ・**個別最適協働的** 一人一台タブレットを用いて課題を保存し、振り返りをすることで授業のまとめを意識しやすくなった。
- ・**協働的** 座り方を半円に変えたことで、挨拶リレーに注目できる生徒が増えた。

中学部3年	職業	授業者名	金澤 琴菜
単元名：職業 「オリエンテーション：働くことについて知ろう」			
学習指導要領の位置付け		中学部2段階 A「職業生活」(勤労の意義) (仕事の内容)	

① グループの実態

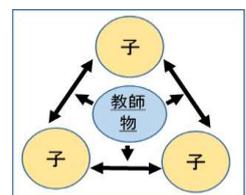
- ・太田ステージ (Ⅱ～Ⅲ-2 後期)
- ・ルーティーンとなっている日常的な活動や簡単な挨拶は自発的に取り組むことができる。慣れていないことが起こった時の発信は苦手。支援や修正はおおむね受け入れる。

② 対象児の自立活動の基礎課題 (個別最適な学びの観点)

- ・イレギュラーが苦手だが短い時間で気持ちを落ち着けられるようになった。(心理的安定)
- ・人との関わりを好むが、大人の顔色を伺うことが多い。(人間関係の形成)

③ 「伝え合い学び合う」しかけ (協働的な学びの観点)

- ・伝わる姿勢や言い方を知り友達の前で発表する場面の設定。
- ・友達の発表を聞き、次に取り組みたい仕事を見付ける。



ステップ2-②

④ 授業の様子

「オリエンテーション：働くことについて知ろう」

主なねらい：様々な職種を体験し、仕事の種類を知る。

活動の流れ：①「働くこと」や「仕事」について知ろう (学年集団)

②気になる仕事を見付けよう (ごっこランド) (学級集団)



働いている人と働いていない人クイズ



どこで働いている人かクイズ

工夫したこと、改善したこと

- ・働いている人と働いていない人を区別するクイズを行った。どこで働いている人かを二つから選べるようになった。
- ・プリントとタブレット端末を併用し、選択してから操作したり、振り返ったりできるようにした。

プリント教材

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** タブレット端末と併用できるプリント教材の準備。
- ・**個別最適協働的** スクリーンショットを行い、友達の前で自分の取り組みを発表することで、友達から拍手をもらうことができた。
- ・**協働的** 友達の発表を受けて「ケーキ屋さん」をやってみたいなど、違う仕事に関心をもてるようになった。

8. 「職業・高等部」(高1、高2、高3)

高等部 1年 aグループ	授業者名 飛田 香奈子
単元名：職業「軽作業に取り組みよう」	
学習指導要領の位置付け	中学部 1段階 ・道具を使ってみよう ◆作業課題が分かり、使用する道具等の扱いに慣れる。 ◆作業の持続性や巧緻性を身に付ける。

① グループの実態

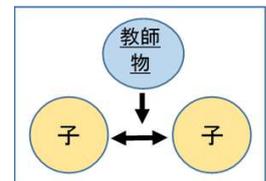
- ・太田ステージⅠ-1(1名)、Ⅰ-3(1名)、Ⅱ(3名)、Ⅲ-1前期(7名)、Ⅲ-2後期(1名)、Ⅲ-2(4名)、不明1名
- ・全員が中学部から進学した生徒。一斉指示で行動することが難しく、個別の言葉掛けが必要な生徒が多い。

② 対象児の自立活動の基礎課題(個別最適な学びの観点)

- ・全員が中学部から進学した生徒。一斉指示で行動することが難しい。
- ・集団での座学の活動に慣れていない。
- ・長い時間作業することが難しい。

③ 「伝え合い学び合う」しかけ(協働的な学びの観点)・ステップ

- ・場面による違いを意識する。
- ・見本を見て正確に作業を行う。



ステップ2-①

④ 授業の様子

「軽作業・挨拶」

主なねらい：場面による違いを意識する。挨拶の言葉について知る。

見本を見て正確に作業を行う。



軽作業教材

工夫したこと、改善したこと

- ・挨拶劇場(ロールプレイ)・実習の報告
- ・目標をもって一人で取り組めるように軽作業の種類を増やす。流れ作業。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

個別最適 挨拶劇場(ロールプレイ)・実習の報告目標をもって一人で取り組めるように軽作業の種類を増やす。流れ作業

協働的 挨拶劇場では、見ている生徒が評価することで友達の様子に注目する姿勢が見られた。

協働的 軽作業を分担して流れ作業にすることで、次の人とコミュニケーションを取りながら活動することができた。

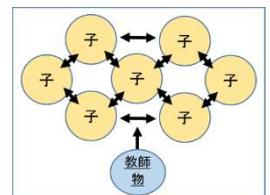
高学部2年Cグループ 職業	授業者名 川相 哲昭
単元名：職業 <ul style="list-style-type: none"> ・職場での正しい言動や過ごし方が分かる。 ・職場の特徴を知る。自分の適性に気付く。成果と課題を知る。 	
学習指導要領の位置付け	高等部2段階 A「職業生活」(スキル)

① グループの実態

- ・太田ステージⅢ-2 前：1人、Ⅲ-2 後：2人 IV-2：4人 IV-1：7人、V：4人
- ・概ね一斉指示で指示理解ができ、集団での活動も安全に実施できる。一部で視覚優位、注意力散漫な生徒がいて課題により個別に言葉掛けをする等の支援をしている。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・聞くことより一方的に発言することが目立つことがある。（コミュニケーション）
- ・他者の言動に過剰に反応してしまうことがある。（人間関係の形成）



ステップ3

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）

- ・各自が実習を発表する場面を設ける。実習時の写真や動画を見る。
- ・職種をカテゴリー分けして整理する。やってみたい職種を考え発表する。

④ 授業の様子

「ビジネスマナー 通勤時に気を付けること」

主なねらい：友達の実習先を知る。仕事内容、職種を知る。必要なスキルを知る。

活動の流れ：①実習発表（これから行く人・終わった人）

②ビジネスマナー



職業一覧表

ビジネスマナーに関するプリント教材

工夫したこと、改善したこと

- ・職場体験実習のしおりを活用し、仕事内容、自身の目標、感想等を発表する。
- ・ロールプレイを実施。互いに評価し合う。
- ・職種の一覧表を掲示し、仕事内容を視覚的に分かりやすくカテゴリー化する。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 仕事内容を視覚的に分かりやすくカテゴリー化した職種一覧表を掲示する。
- ・**協働的** 各自が実習を発表する場面を設ける。実習時の写真や動画を見る。
- ・**協働的** ロールプレイを実施し、体験をしながらふさわしいマナーを身に付ける。他者の様子を見て学んだり評価をしたりして理解を深める。

高学部3年dグループ 職業	授業者名 上原 麗美
単元名：職業 【卒業後の生活】・給与と支出	
学習指導要領の位置付け	高等部1段階 C「消費生活・環境」

① グループの実態

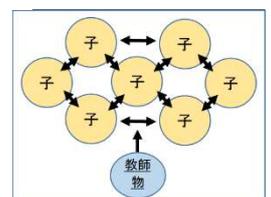
- ・太田ステージVやIV-1 IV-2
- ・一斉の指示では理解が難しく、授業の流れについていけない。また、抽象的な内容や想像力が必要な学習が難しい一方、計算や漢字などの学習は得意である。グループ全体としては、高等部3年になり実習も数回経験をしていく中で、就労に向けてイメージをもちつつあり、課題を克服しようとする一面がある一方、授業態度に課題がある生徒がいる。

② 対象児の自立活動の基礎課題（個別最適な学びの観点）

- ・一方的なコミュニケーションになりがちである。（コミュニケーション）
- ・言葉の通りに受け取る。他者の意図の理解が困難。（人間関係の形成）

③ 「伝え合い学び合う」しかけ（協働的な学びの観点）・ステップ

- ・自分のプランを発表して、他者のプランと比較する。
- ・ほしいものを決定して予算額と貯蓄額を計算する。



ステップ3

④ 授業の様子

「卒業後の生活」

主なねらい：給与で買いたいものを決めて金額を調べることができる。

：自分の考えを相手に伝えるように発表する。

活動の流れ：①買いたいものをタブレット端末で調べる

②プランの発表

給料をためてほしいものを買おう

調べてみよう(ほしいiPhoneの値段を調べよう)

工夫したこと、改善したこと

- ・具体的に活動内容を伝え、全体指示の理解が難しい生徒に対して、机間指導を行った。
- ・調べる対象を、しばことで、検索しやすく、他者との比較がしやすくした。

⑤ 取り組んだ個別最適な学びと協働的な学び

- ・**個別最適** 生徒の関心が高い商品に限定することで、自主的に調べることができた。
- ・**協働的** (金額、新しさ、デザイン、機能等) 理由を発表することで、多様な意見があることを知ることができた。
- ・**協働的** 状況をロールプレイで見せることで理解しやすくなった。